

平成 25 年度 特定健診・特定保健指導の実施状況に関する調査分析

平成 27 年 4 月

IT 推進部データ分析推進グループ

調査の概要

本調査分析は、集計対象となった 1,158 組合（特定健康診査対象者：974 万 6,490 人）の特定健診・特定保健指導データをもとに、特定健康診査の実施率や特定保健指導の実施率のほか、メタボリックシンドローム該当者・予備群の割合、減少率など、平成 25 年度の特定健診・特定保健指導の実施状況についてとりまとめたものです。

【調査実施結果のポイント】

—特定健康診査実施率：70.69%、被保険者：84.55%、被扶養者：39.03%—

- ① 1,158 組合の特定健康診査の対象者数は約 975 万人、受診者数は約 689 万人で、特定健康診査実施率は 70.69%、被保険者では 84.55%、被扶養者では 39.03%となっている(p.4)。
- ② 年齢階層別の特定健康診査実施率では、被保険者では 50-54 歳：87.87%、被扶養者でも 50-54 歳：42.28%が最も高い割合を示している(p.5)。
- ③ 特定健康診査実施率の組合分布状況では、実施率 70～80%未満：435 組合が最も多く、被保険者では実施率 90%以上：607 組合、被扶養者では実施率 30～40%未満：251 組合が最も多い(p.5、p.6)。
- ④ 1,158 組合の特定保健指導対象者は約 131 万人で、保健指導対象者の割合は 18.68%となっている。また、特定保健指導終了者数は約 21 万人で、特定保健指導対象者に占める割合（特定保健指導実施率）は 15.88%となっている(p.7)。
- ⑤ 保健指導レベル別の実施率は、積極的支援：14.27%、動機づけ支援：18.22%となっている(p.10)。
- ⑥ 特定保健指導実施率の組合分布状況では、「積極的支援」、「動機づけ支援」とともに、実施率 0～10%未満が最も多い(p.12)。
- ⑦ 内臓脂肪症候群該当者の割合は、合計：12.73%、被保険者：14.58%、被扶養者：3.50%となっており、60 歳台以降で比較的高い傾向が示されている(p.13、p.14)。
- ⑧ 男女別の内臓脂肪症候群該当者の割合は、男性：18.21%、女性：3.53%となっている(p.17)。
- ⑨ 内臓脂肪症候群該当者の減少率は、合計：28.39%、被保険者：28.45%、被扶養者：26.90%となっており、40 歳台で高い傾向にある(p.19、p.20)。
- ⑩ 特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率は、全体：30.07%、被保険者：29.99%、被扶養者：32.96%となっている(p.23、p.24)。

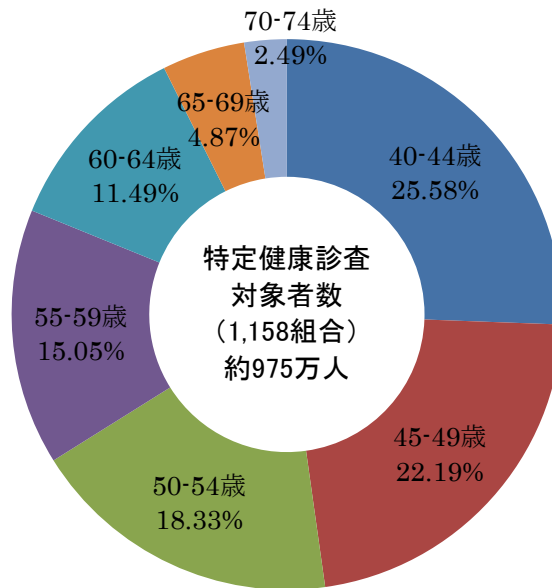
【目次】

1. 年齢階層別特定健康診査対象者の割合	-3-
2. 特定健康診査の実施率	-4-
3. 年齢階層別にみた特定健康診査実施率	-4-
4. 特定健康診査実施率の組合分布状況	-5-
5. 特定保健指導の実施率	-7-
6. 年齢階層別にみた特定保健指導利用率	-7-
7. 特定保健指導利用率の組合分布状況	-9-
8. 年齢階層別にみた特定保健指導実施率	-10-
9. 特定保健指導実施率の組合分布状況	-12-
10. 年齢階層別にみた内臓脂肪症候群該当者の割合	-13-
11. 年齢階層別にみた内臓脂肪症候群予備群の割合	-15-
12. 男女別にみた内臓脂肪症候群該当者の割合	-17-
13. 男女別にみた内臓脂肪症候群予備群の割合	-18-
14. 年齢階層別にみた内臓脂肪症候群該当者の減少率	-19-
15. 年齢階層別にみた内臓脂肪症候群予備群の減少率	-21-
16. 年齢階層別にみた特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率	-23-
17. 業態別にみた特定健康診査実施率	-25-
18. 業態別にみた特定保健指導実施率	-27-
19. 業態別にみた内臓脂肪症候群該当者の割合	-29-
20. 業態別にみた内臓脂肪症候群予備群の割合	-31-
21. 年齢階層別にみた服薬状況(高血圧症、脂質異常症、糖尿病)	-33-
22. 業態別にみた服薬状況(高血圧症、脂質異常症、糖尿病)	-36-

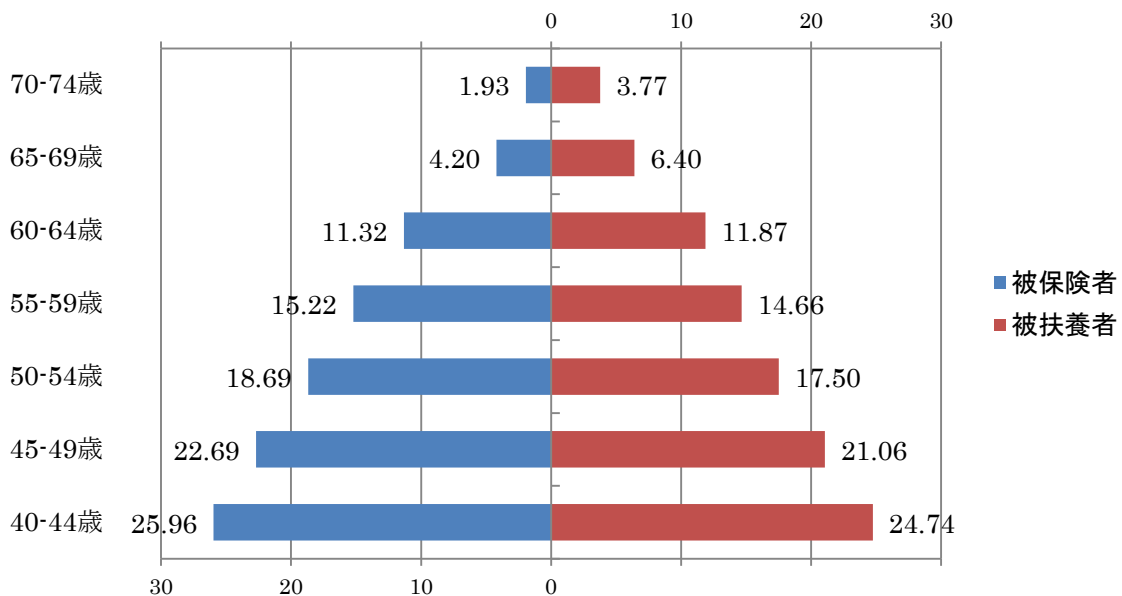
1. 年齢階層別特定健康診査対象者の割合

- 年齢階層別に特定健康診査対象者¹(約975万人)の割合をみると、①40-44歳：25.58%と最も高く、次いで、②45-49歳：22.19%、③50-54歳：18.33%となっている。
- 被保険者・被扶養者別にみると、40歳～59歳台では被保険者のほうが高く、60歳～74歳台では被扶養者のほうが高い傾向にある。

年齢階層別特定健康診査対象者の割合



被保険者・被扶養者別特定健康診査対象者の割合



¹ 健康診査対象者は当該年度末(3月31日)を基準とし、年度途中で喪失した者は除く。

2. 特定健康診査の実施率

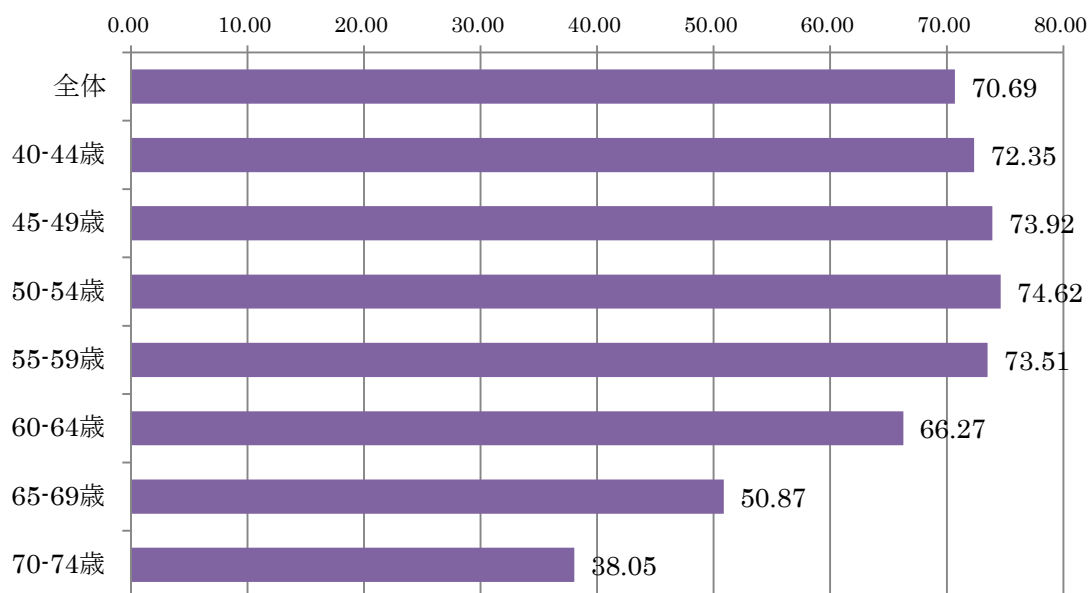
- 1,158 組合の特定健康診査実施率²は全体:70.69%で、被保険者:84.55%、被扶養者:39.03%となっており、被保険者は8割を超える状況にある。

区分	対象者数	受診者数	受診率	評価対象者数 ³
全体	9,746,490 人	6,889,690 人	70.69%	6,995,972 人
被保険者	6,778,687 人	5,731,244 人	84.55%	5,825,755 人
被扶養者	2,967,803 人	1,158,446 人	39.03%	1,170,217 人

3. 年齢階層別にみた特定健康診査実施率

- 年齢階層別の特定健康診査実施率をみると、全体:70.69%に対して、最も高いのは①50-54歳:74.62%で、次いで、②45-49歳:73.92%、③55-59歳:73.51%となっている。
- 被保険者・被扶養者別にみると(p.5)、被保険者では全体:84.55%に対して、①50-54歳:87.87%、②45-49歳:87.63%、③55-59歳:87.08%の順に高く、被扶養者では全体39.03%に対して、①50-54歳:42.28%、②55-59歳:41.31%、③45-49歳:40.18%の順に高く、いずれも40～50歳台で高い割合を示している。

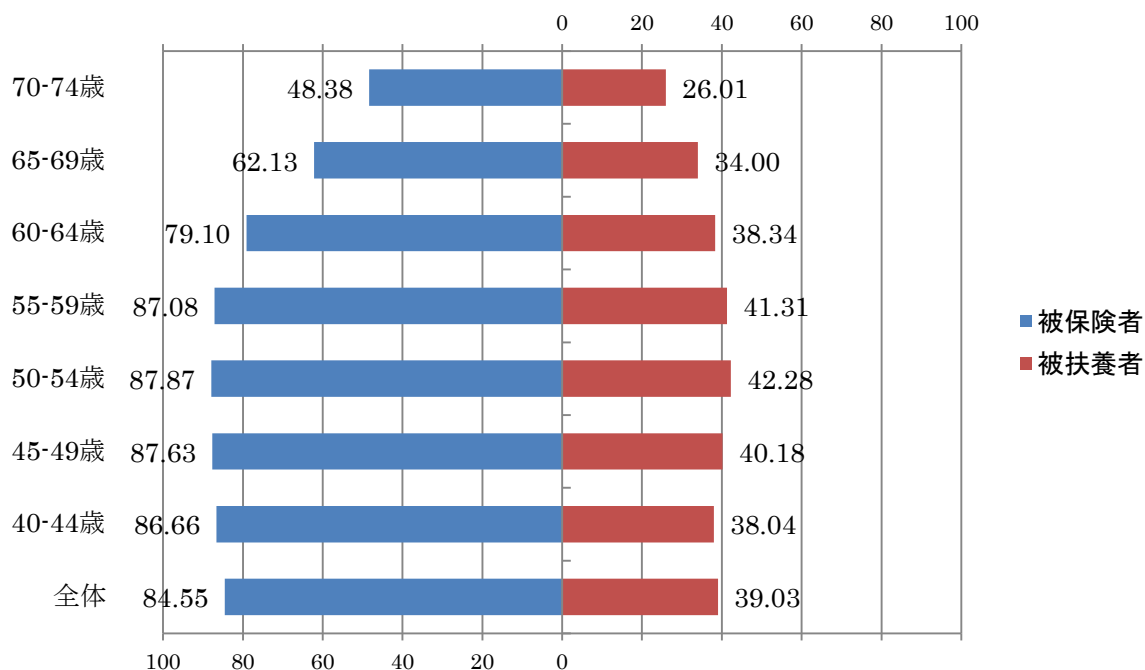
年齢階層別特定健康診査実施率【合計】



² 特定健康診査受診者数÷特定健康診査対象者数。なお受診者数は、特定健康診査における基本的な健診項目を全て実施した者の数。

³ 特定健康診査受診者数に、特定健康診査の必須項目の一部情報が欠落しているものの、その他の項目に基づきリスクが確定し、保健指導の階層化が可能な対象者を加えた者の数。

被保険者・被扶養者別特定健康診査実施率の割合

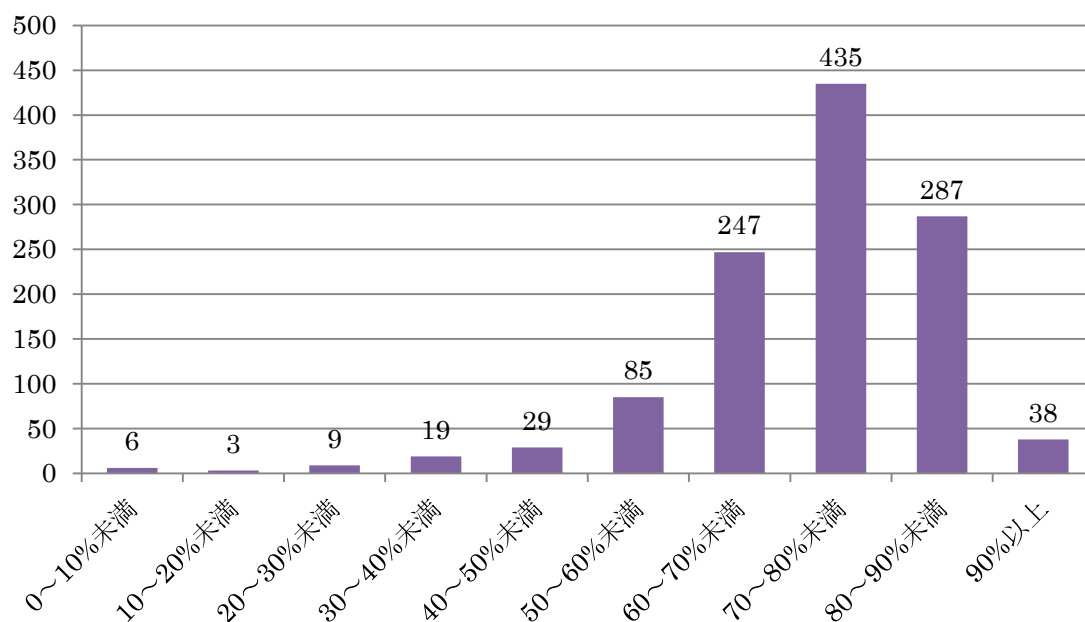


4. 特定健康診査実施率の組合分布状況

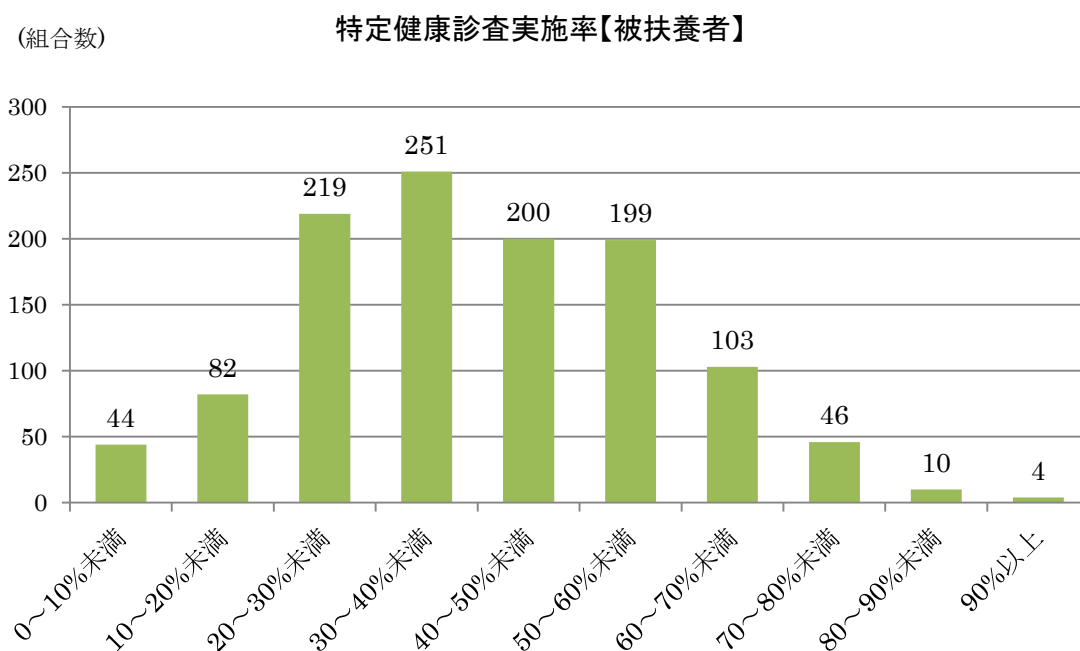
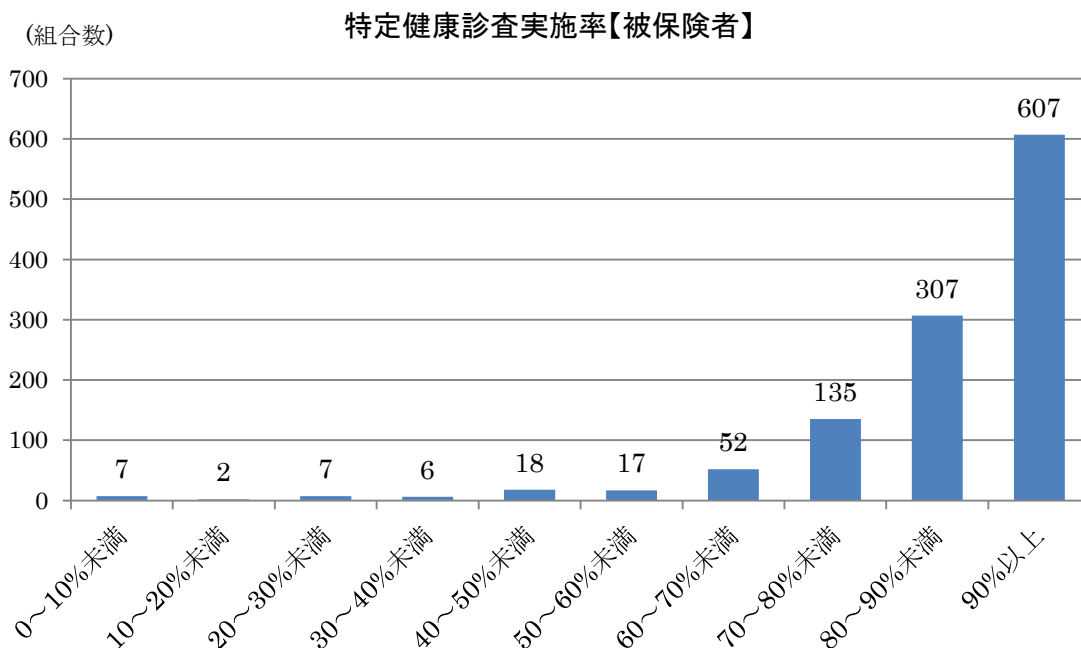
- 特定健康診査実施率の組合分布をみると、①70～80%未満:435組合が最も高く、次いで、②80～90%未満:287組合、③60～70%未満:247組合となっている。

(組合数)

特定健康診査実施率【合計】



- 被保険者・被扶養者別にみると、被保険者では①90%以上が 607 組合と最も高く、次いで、②80～90%未満:307 組合、③70～80%未満:135 組合となっており、70～90%以上:1,049 組合で全体の 90%を占めている。
- 一方、被扶養者では、①30～40%未満:251 組合、②20～30%未満:219 組合、③40～50%未満:200 組合の順に高く、20～60%未満:869 組合で全体の 8 割近くを占めている。



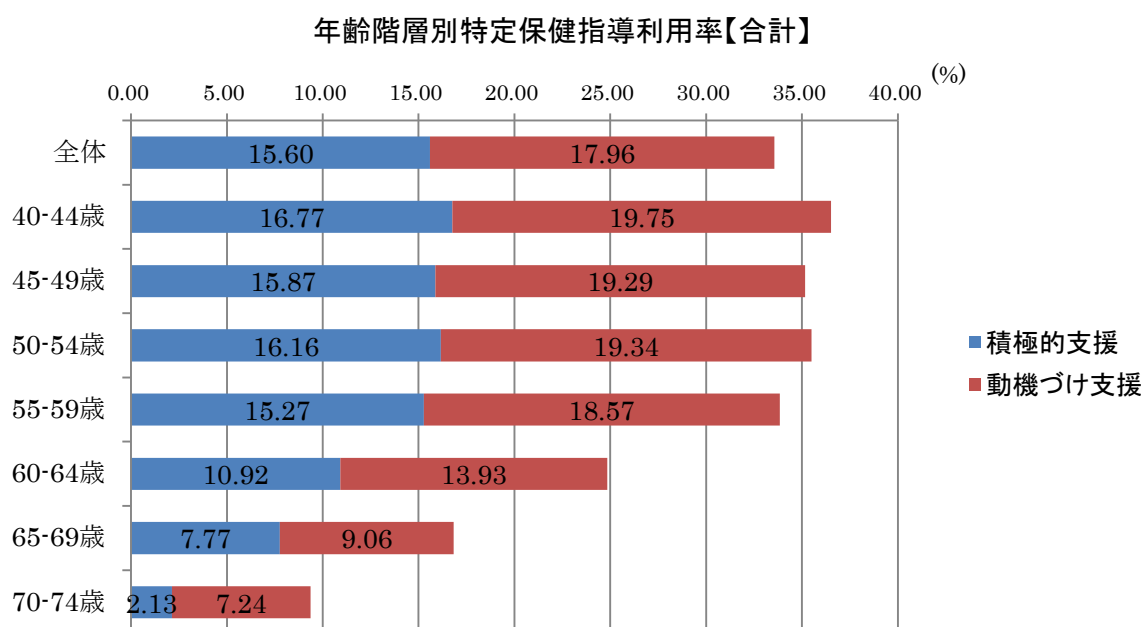
5. 特定保健指導の実施率

- 平成 25 年度に特定健康診査を受けた者のうち、特定保健指導の対象者⁴になった者の割合(※特定保健指導対象者÷評価対象者数⁵)は全体:18.68%、被保険者:21.03%、被扶養者:6.97%となっている。
- また、特定保健指導対象者のうち、特定保健指導を終了した者の割合(以下、「特定保健指導実施率」という。)は全体:15.88%、被保険者:16.47%、被扶養者:6.95%となっている。

区分	特定保健指導対象者数	特定保健指導対象者割合	特定保健指導終了者数	特定保健指導実施率
全体	1,306,584 人	18.68%	207,439 人	15.88%
被保険者	1,225,035 人	21.03%	201,773 人	16.47%
被扶養者	81,549 人	6.97%	5,666 人	6.95%

6. 年齢階層別にみた特定保健指導利用率

- 特定保健指導利用率⁶を保健指導レベル別にみると、積極的支援は全体:15.60%に対して、①40-44 歳:16.77%、②50-54 歳:16.16%、③45-49 歳:15.87%の順に高い。また、動機づけ支援は全体:17.96%に対して、①40-44 歳:19.75%、②50-54 歳:19.34%、45-49 歳:19.29%となっている。



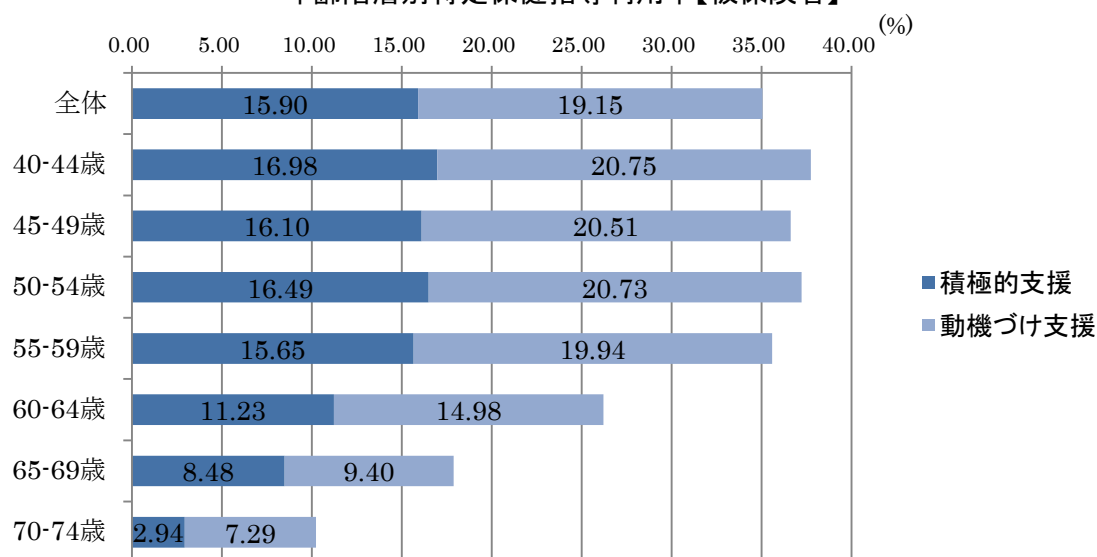
⁴ 特定健康診査の結果に基づき生活習慣の改善が必要とされる者。

⁵ 特定健康診査受診者数に、特定健康診査の必須項目の一部情報が欠落しているものの、その他の項目に基づきリスクが確定し、保健指導の階層化が可能な対象者を加えた者の数。

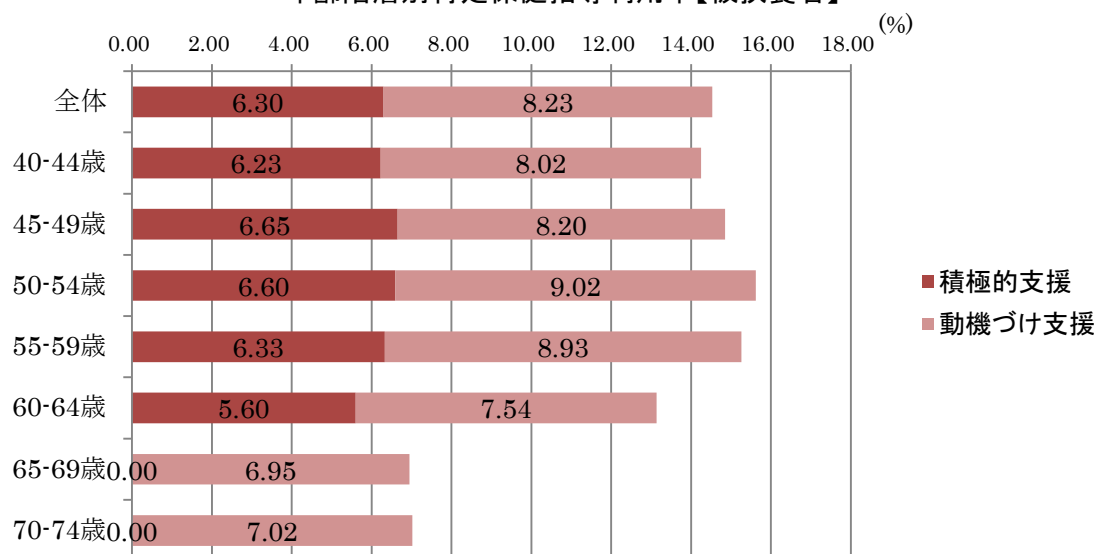
⁶ 特定保健指導利用者数÷特定保健指導対象者数。

- 被保険者・被扶養者別にみると、被保険者では、積極的支援が全体:15.90%に対して、①40-44歳:16.98%、②50-54歳:16.49%、③45-49歳:16.10%の順に高く、動機づけ支援が全体:19.15%に対して、①40-44歳:20.75%、②50-54歳:20.73%、③45-49歳:20.51%となっている。
- 被扶養者では、積極的支援が全体:6.30%に対して、①45-49歳:6.65%、②50-54歳:6.60%、③55-59歳:6.33%の順に高く、動機づけ支援が全体:8.23%に対して、①50-54歳:9.02%、②55-59歳:8.93%、③45-49歳:8.20%となっている。

年齢階層別特定保健指導利用率【被保険者】

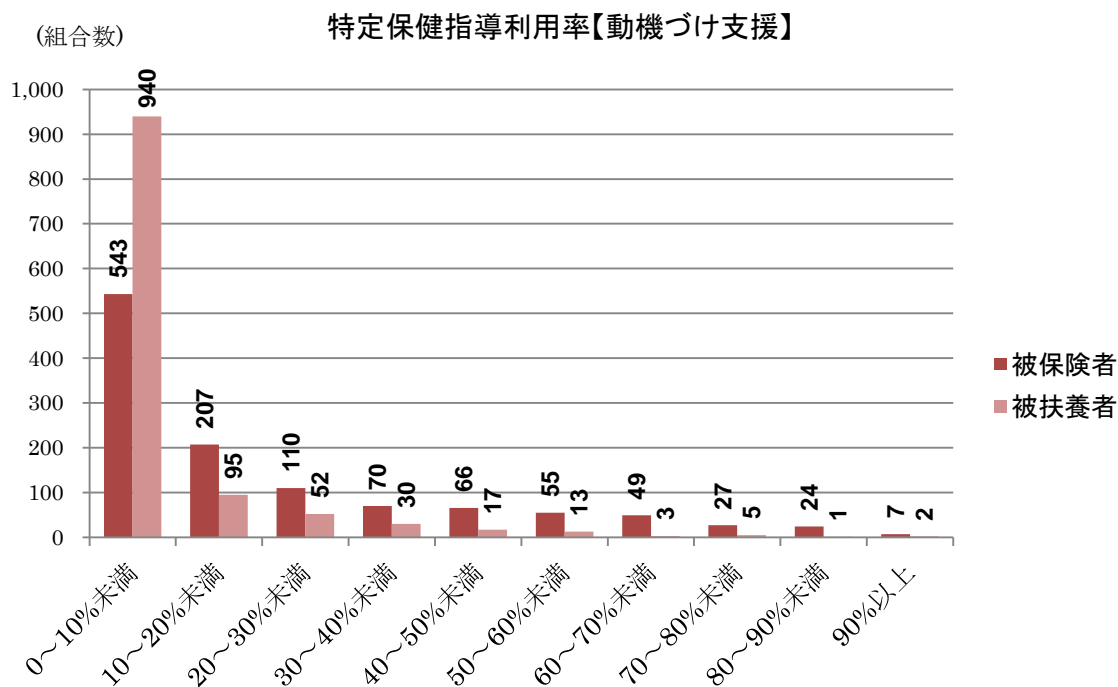
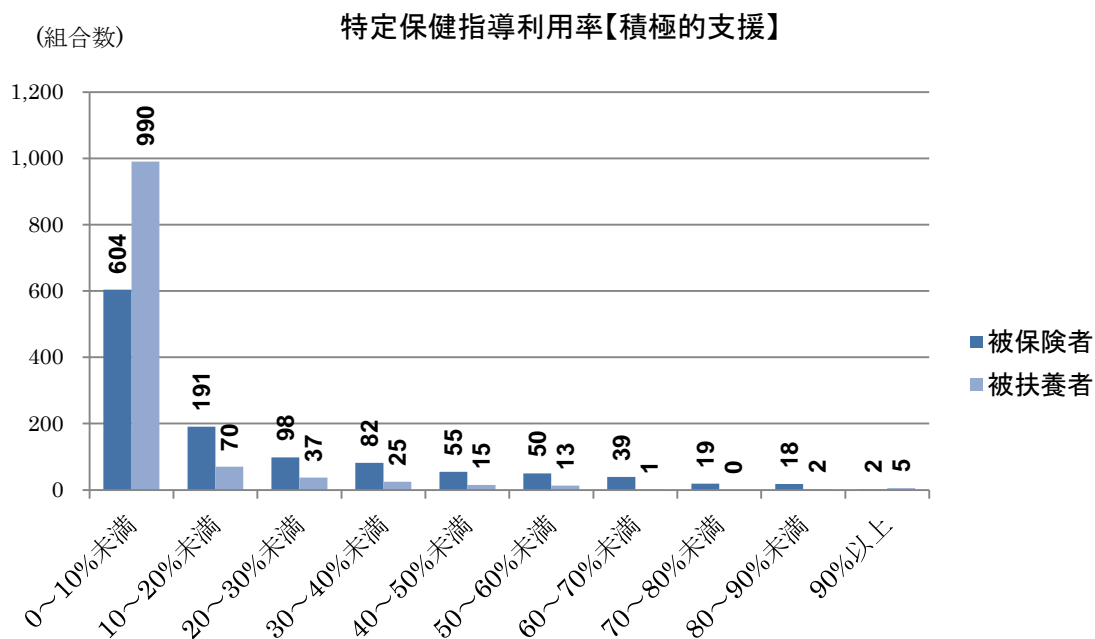


年齢階層別特定保健指導利用率【被扶養者】



7. 特定保健指導利用率の組合分布状況

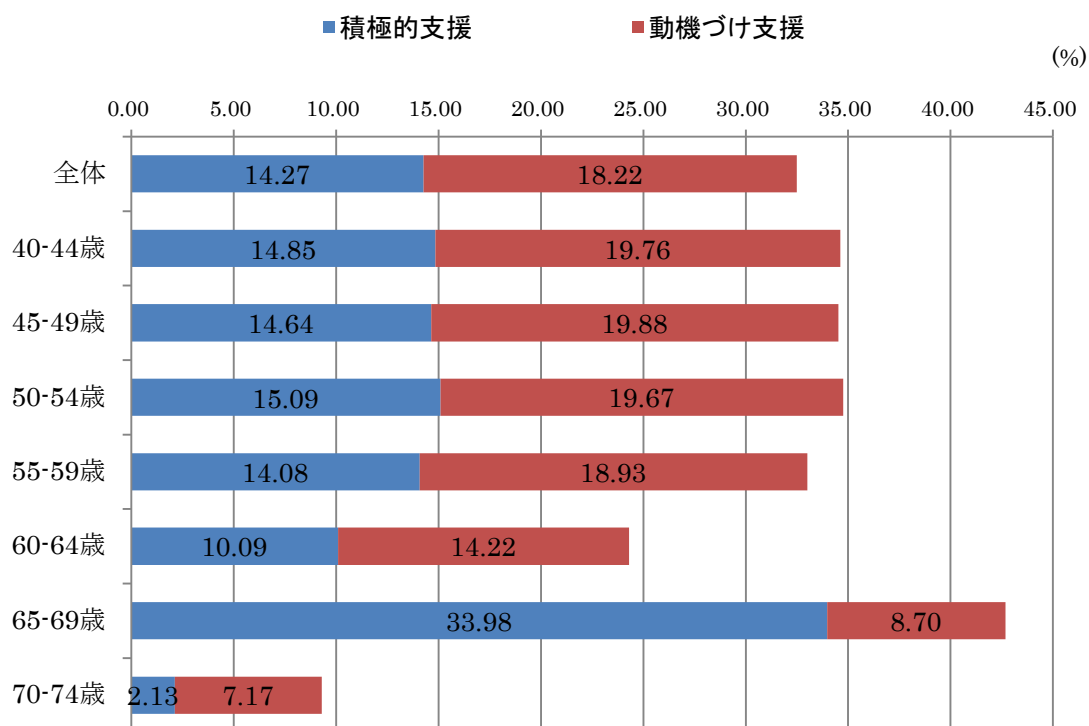
- 保健指導レベル別に特定保健指導利用率の組合分布状況をみると、積極的支援、動機づけ支援ともに、0～10%未満が最も多い。



8. 年齢階層別にみた特定保健指導実施率

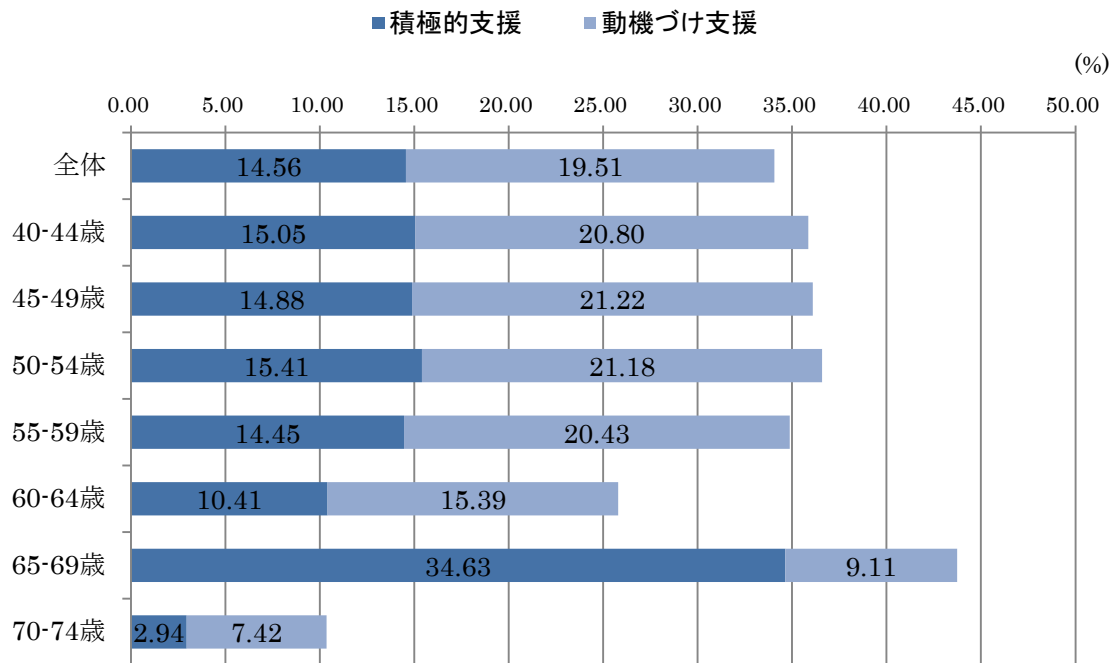
- 年齢階層別に特定保健指導実施率をみると、積極的支援⁷では全体:14.27%に対して、①50-54歳:15.09%が最も高く、次いで、②40-44歳:14.85%、③45-49歳:14.64%となっている。
- また、動機づけ支援では、全体 18.22%に対して、①45-49歳:19.88%、②40-44歳:19.76%、50-54歳:19.67%の順に高い。
- 被保険者・被扶養者別にみると(p.11)、被保険者では、積極的支援が全体:14.56%に対して、50-54歳:15.41%が最も高く、動機づけ支援が全体:19.51%に対して、45-49歳:21.22%が最も高い。
- 被扶養者では、積極的支援が全体:5.10%に対して、50-54歳:5.66%が最も高く、動機づけ支援が全体:7.69%に対して、55-59歳:8.44%が最も高い

年齢階層別特定保健指導実施率【合計】

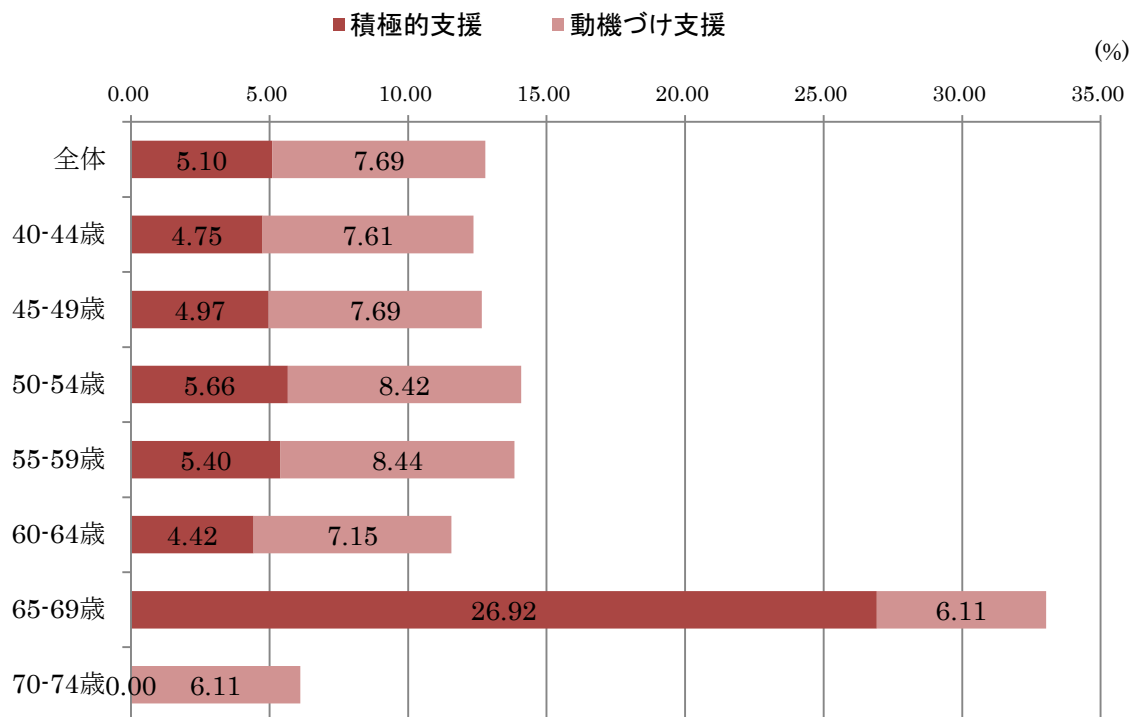


⁷ 前期高齢者（65歳以上75歳未満）については、「積極的支援」の対象となった場合でも「動機づけ支援」とすることになっているが、本集計に「積極的支援」としてデータが存在するため、そのまま掲載した。ただし、本文中ではこれを除外している。

年齢階層別特定保健指導実施率【被保険者】

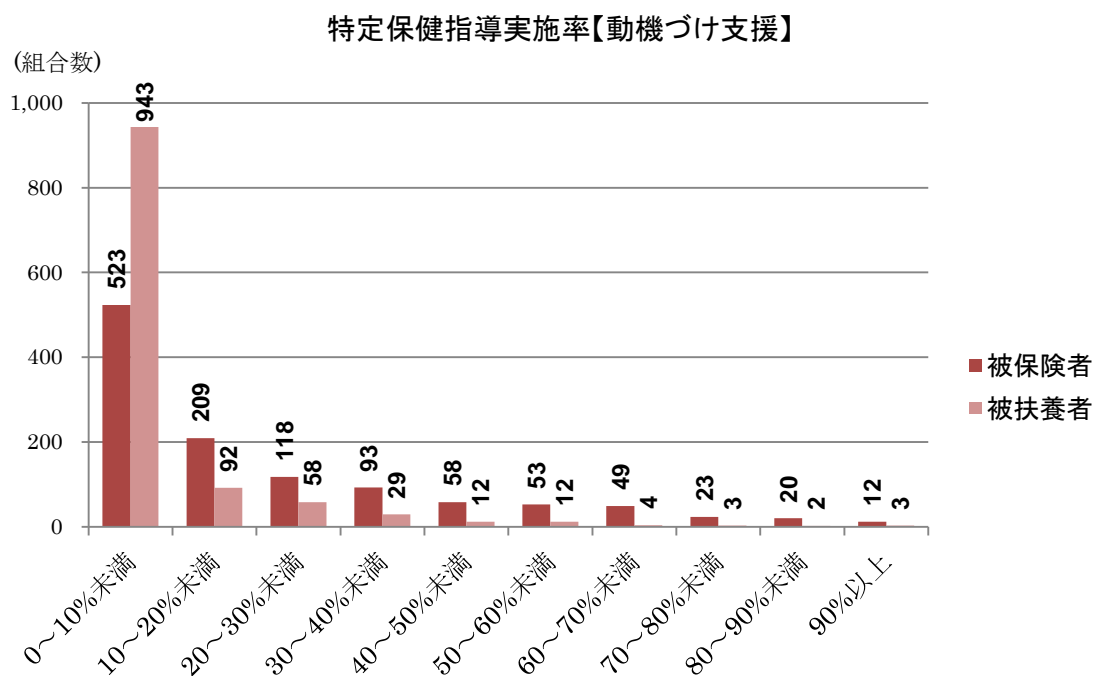
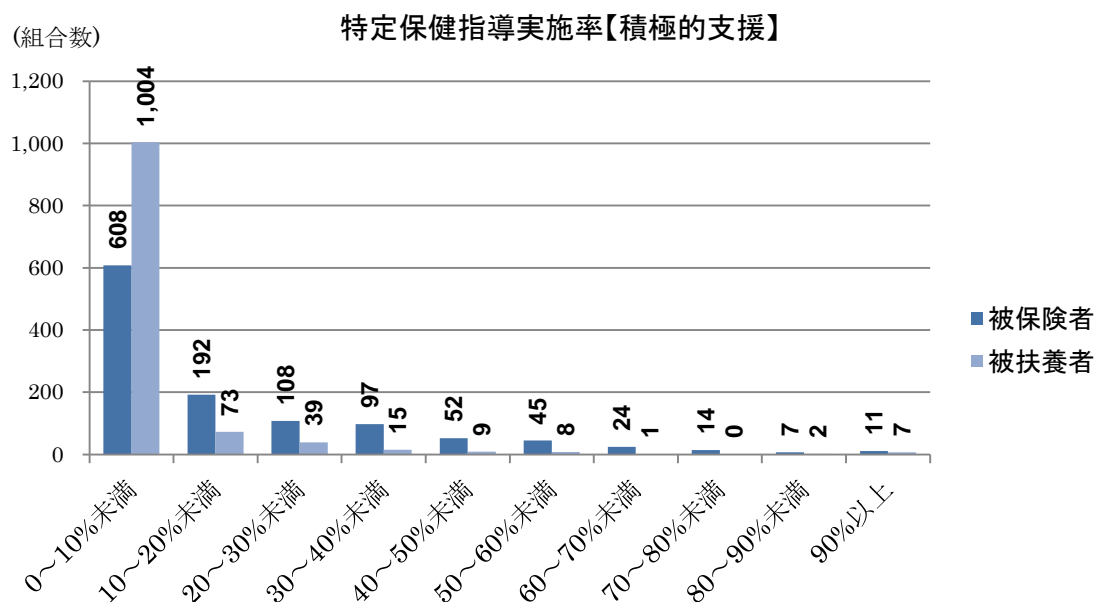


年齢階層別特定保健指導実施率【被扶養者】



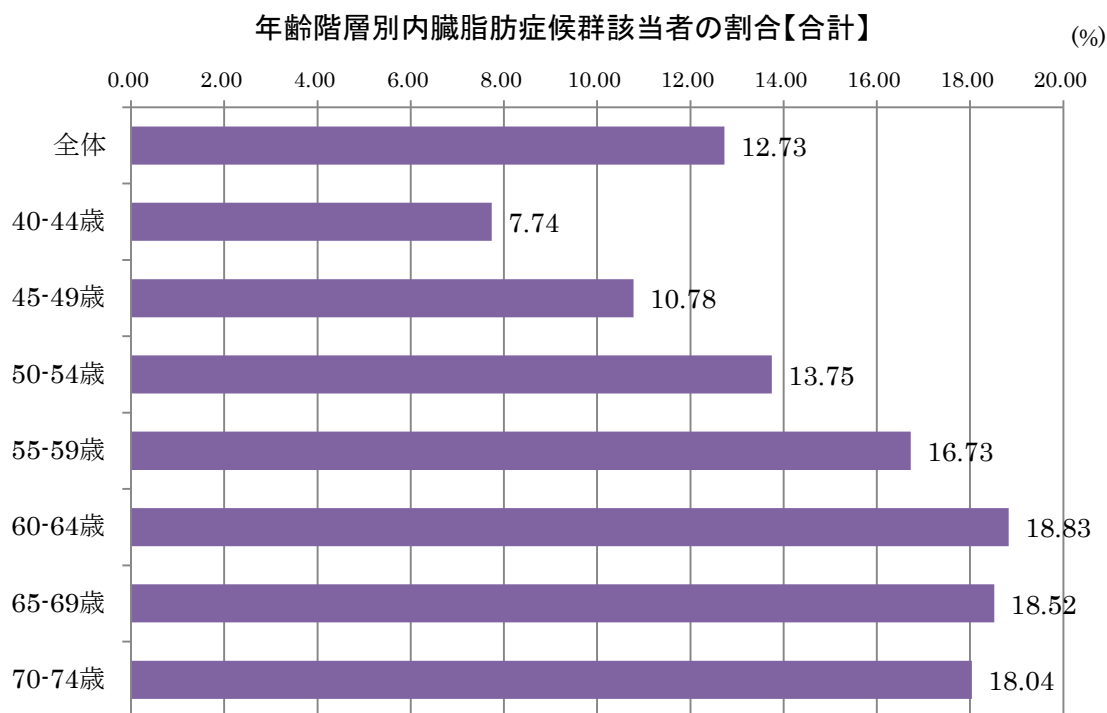
9. 特定保健指導実施率の組合分布状況

- 保健指導レベル別に特定保健指導の実施率の組合分布状況をみると、積極的支援、動機づけ支援ともに0～10%未満が最も多い。



10. 年齢階層別にみた内臓脂肪症候群該当者の割合

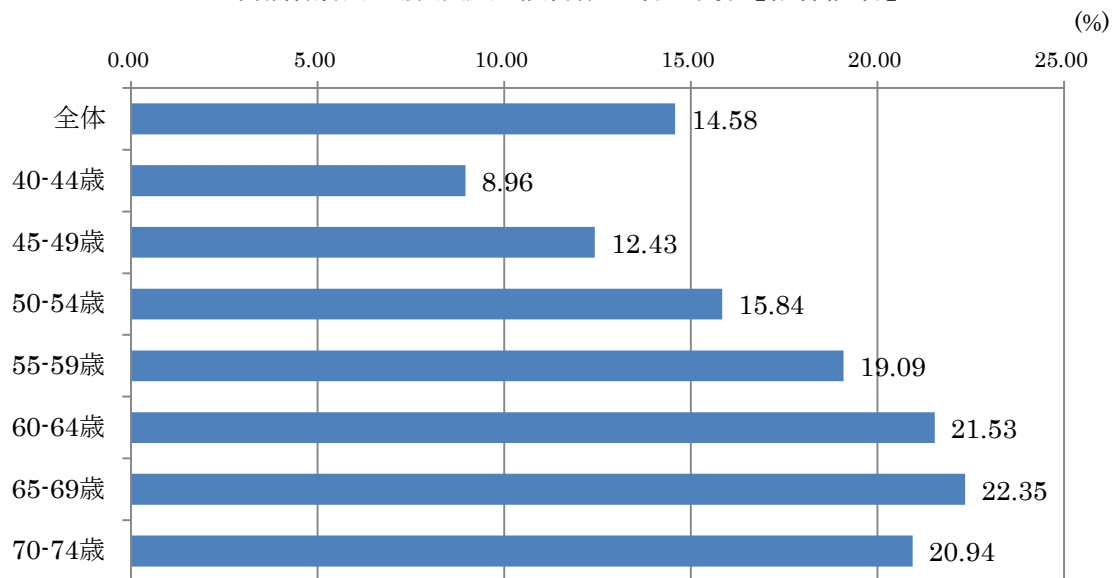
- 年齢階層別に内臓脂肪症候群該当者⁸の割合⁹をみると、全体:12.73%に対して、最も高いのは①60-64歳:18.83%、次いで、②65-69歳:18.52%、③70-74歳:18.04%と、55歳以降で高い傾向が示されている。
- 被保険者・被扶養者別にみると(p.14)、被保険者では全体:14.58%に対して、①65-69歳:22.35%が最も高く、次いで、②60-64歳:21.53%、③70-74歳:20.94%となっている。
- 被扶養者では全体:3.50%に対して、①70-74歳:11.64%と最も高く、次いで、②65-69歳:7.92%、③60-64歳:6.62%となっている。



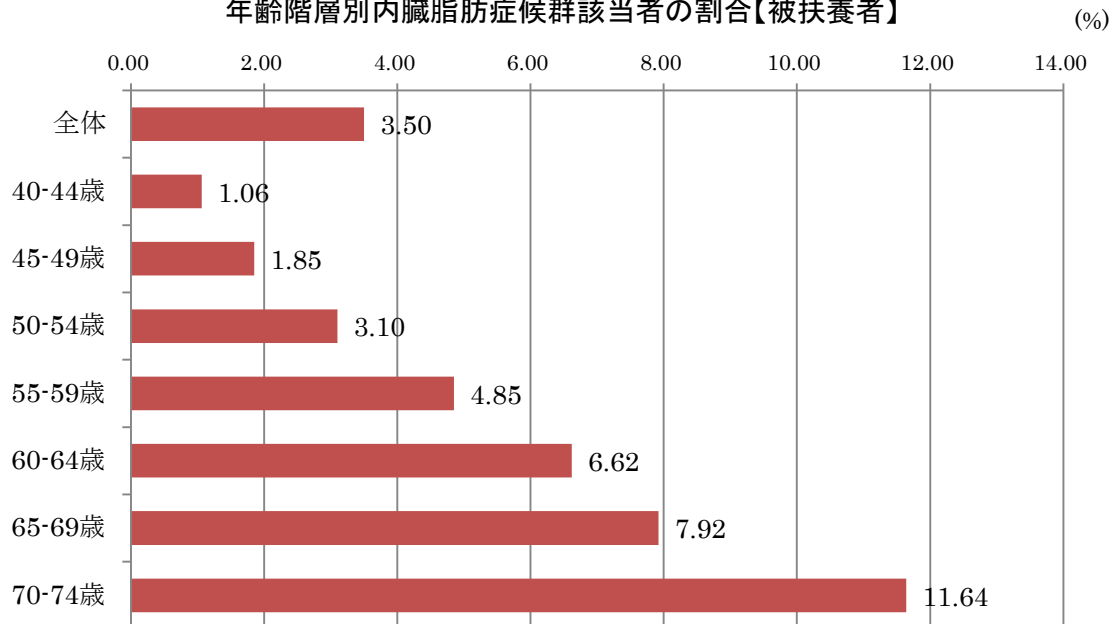
⁸ 内臓脂肪の蓄積（腹囲測定等）に加え、血中脂質、血圧、血糖の基準のうち、2つ以上に該当する者。

⁹ 内臓脂肪症候群該当者数÷評価対象者数

年齢階層別内臓脂肪症候群該当者の割合【被保険者】

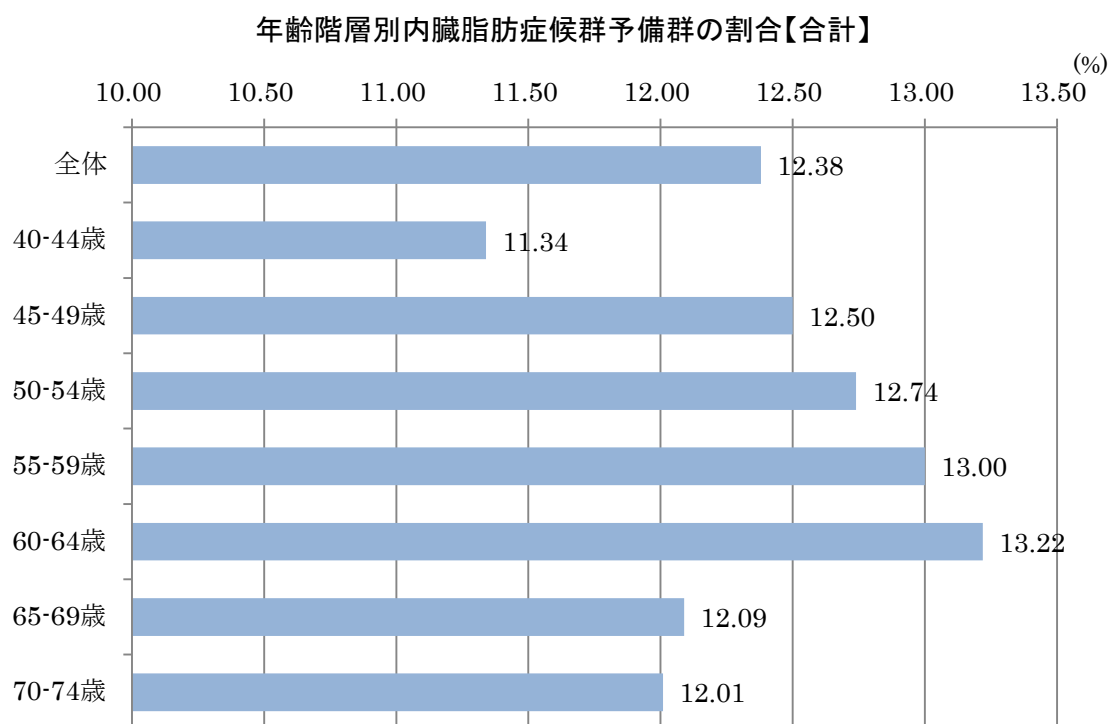


年齢階層別内臓脂肪症候群該当者の割合【被扶養者】



11. 年齢階層別にみた内臓脂肪症候群予備群の割合

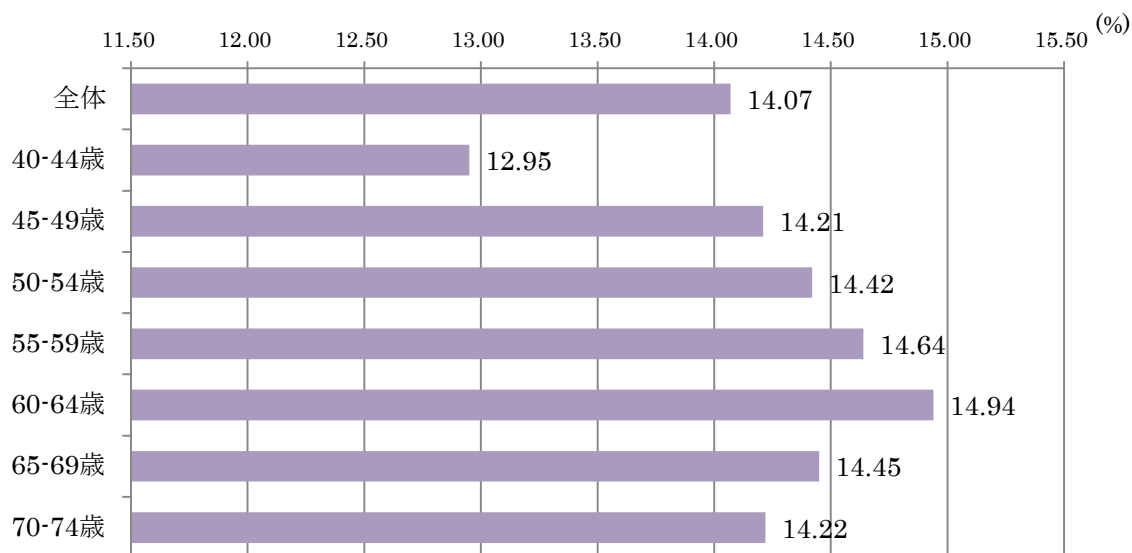
- 年齢階層別に内臓脂肪症候群予備群¹⁰の割合¹¹をみると、全体:12.38%に対して、最も高いのは①60-64歳:13.22%で、次いで、②55-59歳:13.00%、③50-54歳:12.74%となっている。
- 被保険者・被扶養者別にみると(p.16)、被保険者では全体:14.07%に対して、①60-64歳:14.94%が最も高く、次いで、②55-59歳:14.64%、③65-69歳:14.45%となっており、50～60歳台で高い割合を示している。
- 被扶養者では全体:3.96%に対して、①70-74歳:7.13%と最も高く、次いで、②65-69歳:5.58%、③60-64歳:5.43%となっており、年齢階層が上がるごとに高くなっている。



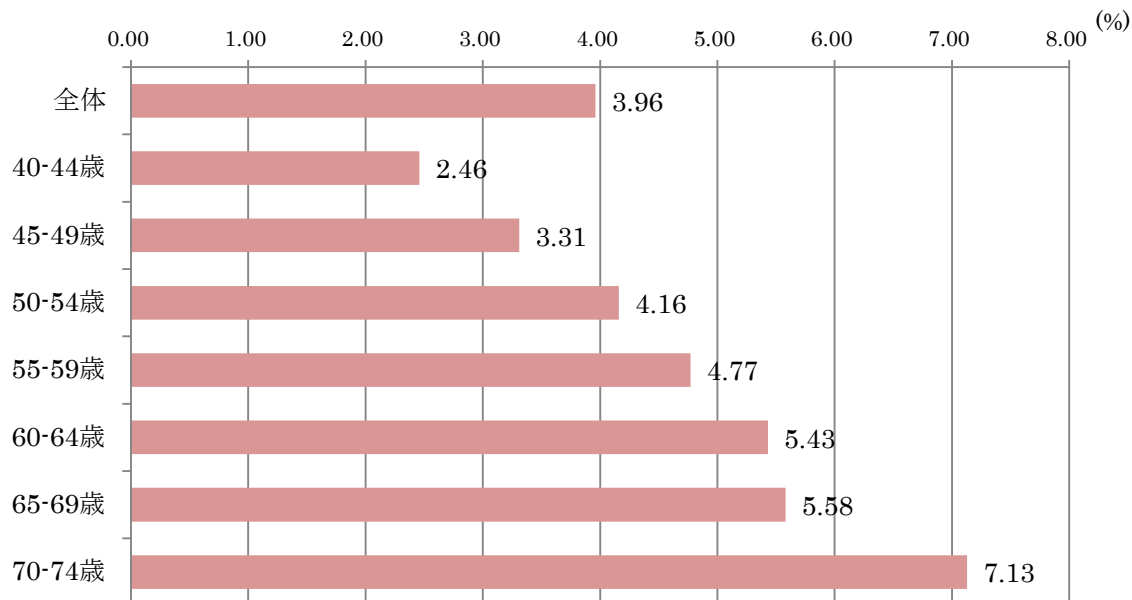
¹⁰ 内臓脂肪の蓄積（腹囲測定等）に加え、血中脂質、血圧、血糖の基準の1つに該当する者。

¹¹ 内臓脂肪症候群予備群者数÷評価対象者数

年齢階層別内臓脂肪症候群予備群の割合【被保険者】



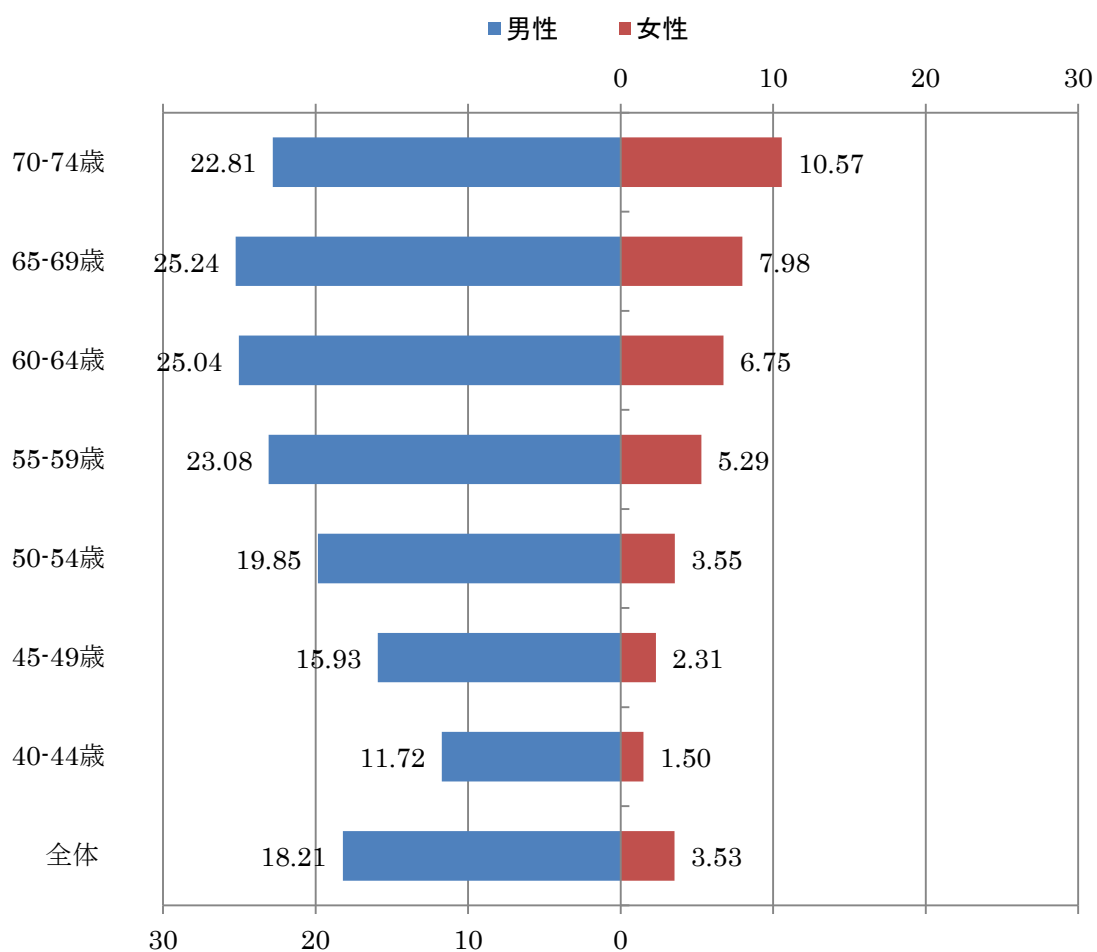
年齢階層別内臓脂肪症候群予備群の割合【被扶養者】



12. 男女別にみた内臓脂肪症候群該当者の割合

- 男女別に内臓脂肪症候群該当者の割合をみると、男性:18.21%、女性:3.53%と男性が圧倒的に高いことがわかる。
- 年齢階層別にみると、男性では65-69歳:25.24%、女性では70-74歳:10.57%が最も高く、年齢階層が上がるごとに高くなる傾向が示されている。

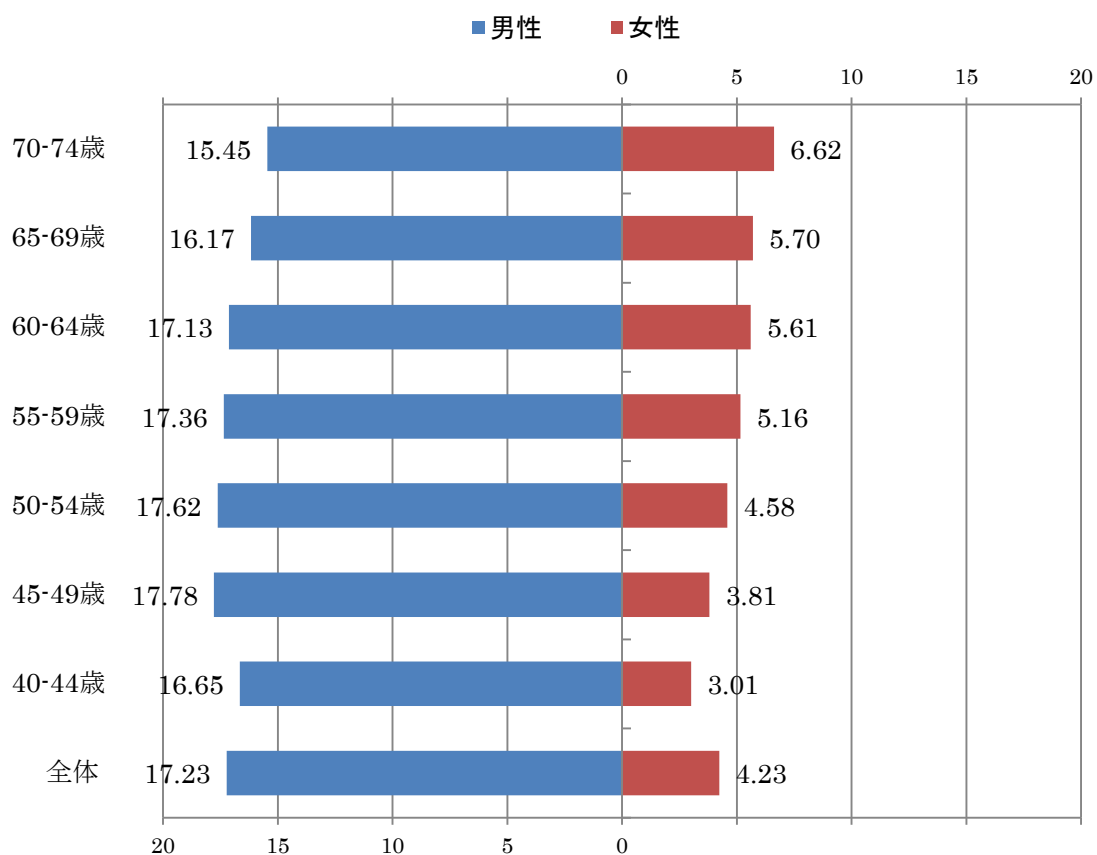
男女別内臓脂肪症候群該当者の割合



13. 男女別にみた内臓脂肪症候群予備群の割合

- 男女別に内臓脂肪症候群予備群の割合をみると、男性:17.23%、女性:4.23%と男性が圧倒的に高いことがわかる。
- 年齢階層別にみると、男性では45-49歳:17.78%が最も高いものの、年齢間の差異は大きくなく15%~17%台となっている。一方、女性では70-74歳:6.62%が最も高く、年齢階層が上がるごとに高くなる傾向が示されている。

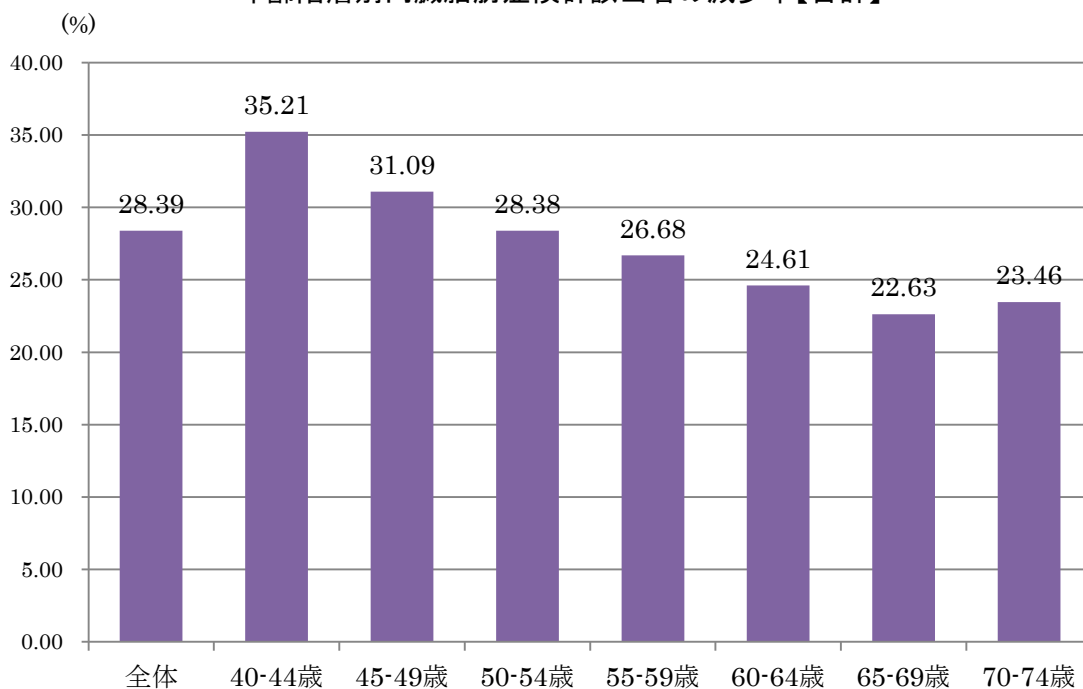
男女別内臓脂肪症候群予備群の割合



14. 年齢階層別にみた内臓脂肪症候群該当者の減少率

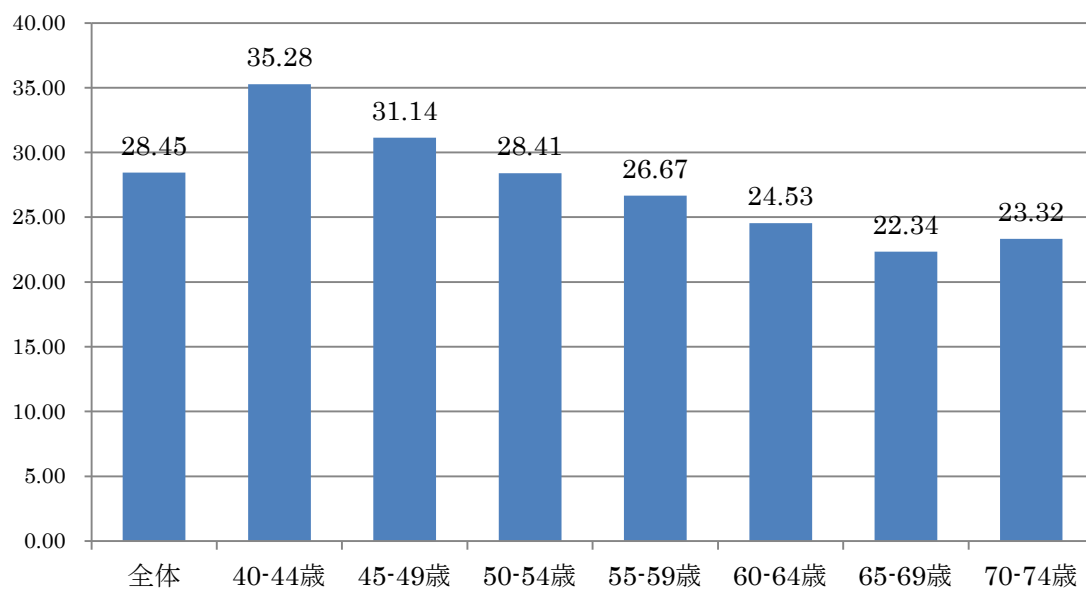
- 年齢階層別に内臓脂肪症候群の減少率¹²をみると、全体:28.39%に対して、最も高いのは①40-44歳:35.21%で、次いで、②45-49歳:31.09%、③50-54歳:28.38%と、40～50歳台の減少率が比較的高い傾向にある。
- 被保険者・被扶養者別にみると(p.20)、被保険者では全体:28.45%に対して、①40-44歳:35.28%が最も高く、次いで②45-49歳:31.14%、③50-54歳:28.41%となっている。
- 被扶養者では全体:26.90%に対して、①40-44歳:31.82%が最も高く、②45-49歳:29.44%、③50-54歳:27.55%となっている。

年齢階層別内臓脂肪症候群該当者の減少率【合計】

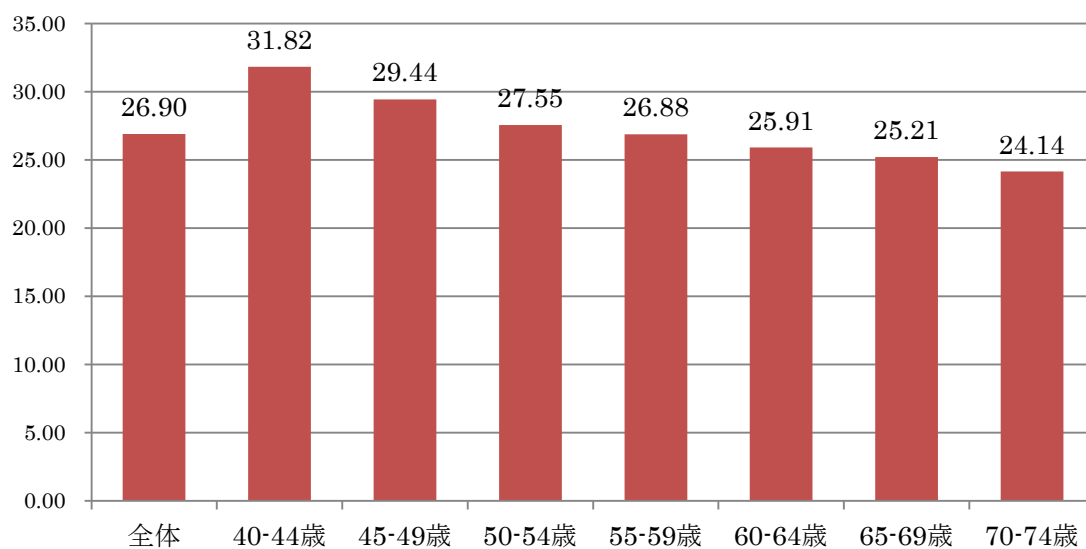


¹² (昨年度の内臓脂肪症候群該当者の数のうち、今年度の内臓脂肪症候群予備群の数+今年度の内臓脂肪症候群該当者・予備群でなくなった者の数) ÷ 昨年度の内臓脂肪症候群該当者の数

(%) 年齢階層別内臓脂肪症候群該当者の減少率【被保険者】

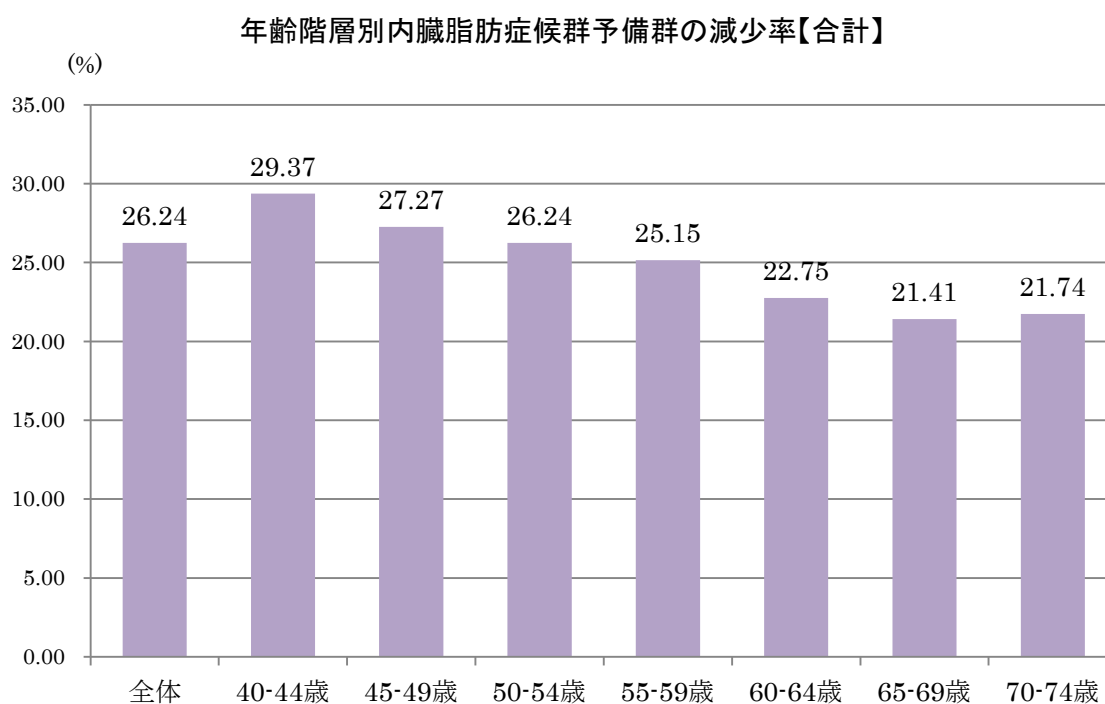


(%) 年齢階層別内臓脂肪症候群該当者の減少率【被扶養者】



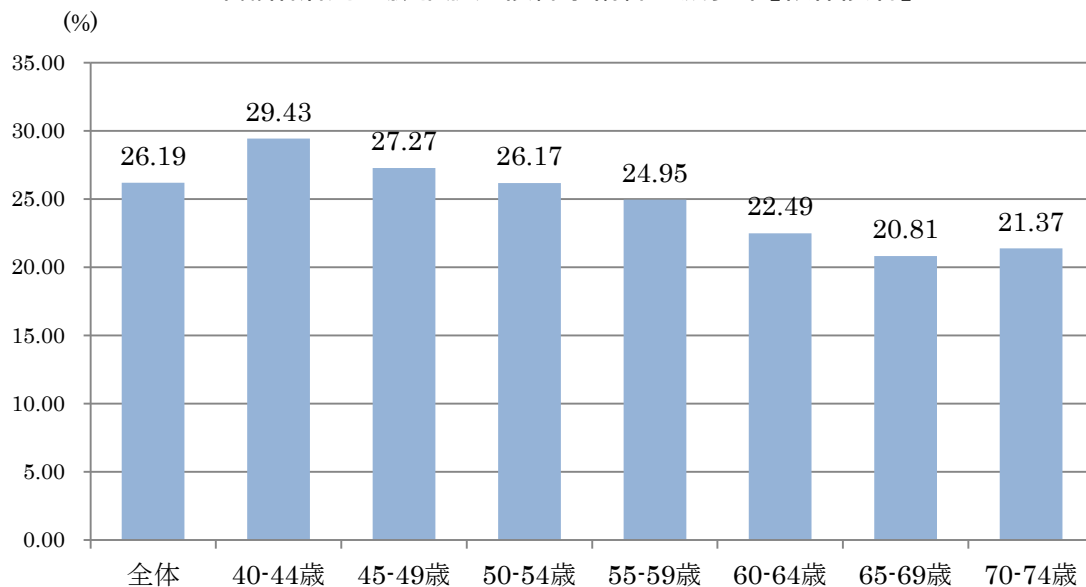
15. 年齢階層別にみた内臓脂肪症候群予備群の減少率

- 年齢階層別に内臓脂肪症候群予備群の減少率¹³をみると、全体:26.24%に対して、最も高いのは①40-44歳:29.37%で、次いで、②45-49歳:27.27%、③50-54歳:26.24%と、40～50歳台で比較的高い傾向にある。
- 被保険者・被扶養者別にみると(p.22)、被保険者では全体:26.19%に対して、①40-44歳:29.43%が最も高く、次いで、②45-49歳:27.27%、③50-54歳:26.17%となっている。
- 被扶養者では全体:27.25%に対して、最も高いのは①55-59歳:28.55%で、次いで、②50-54歳:27.61%、③45-49歳:27.50%となっており、被保険者に比べ比較的高い年齢層で減少率が高い傾向にある。

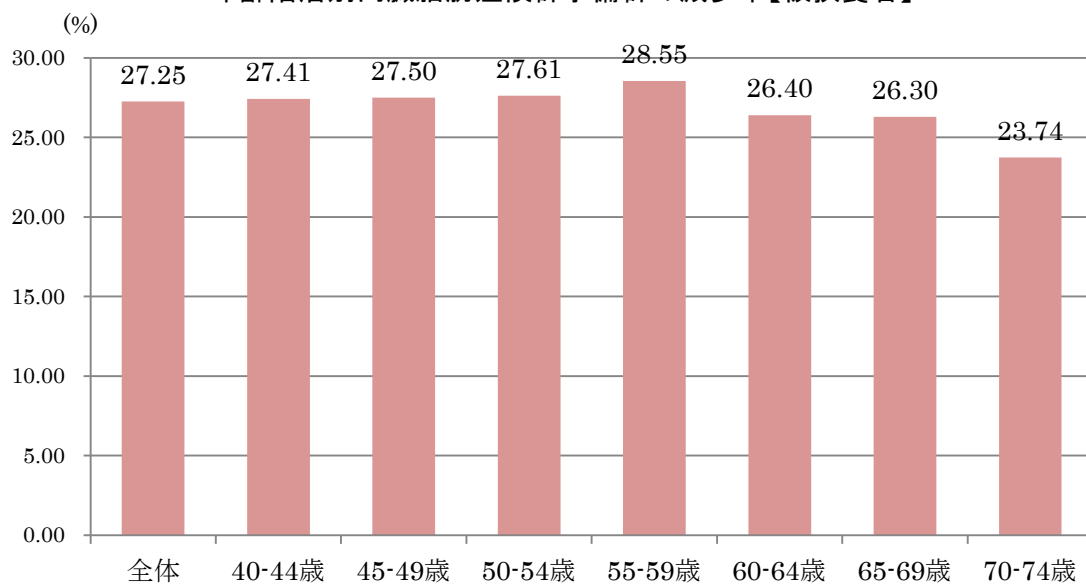


¹³ 昨年度の内臓脂肪症候群予備群の数のうち、今年度の内臓脂肪症候群該当者・予備群でなくなった者の数÷昨年度の内臓脂肪症候群予備群の数

年齢階層別内臓脂肪症候群予備群の減少率【被保険者】

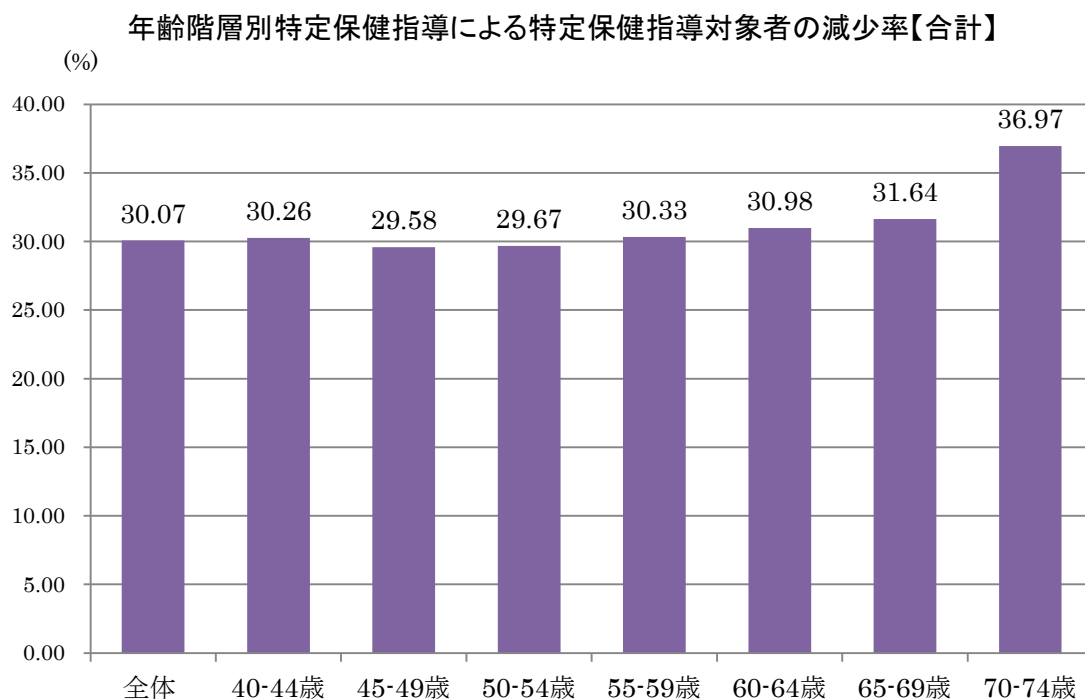


年齢階層別内臓脂肪症候群予備群の減少率【被扶養者】



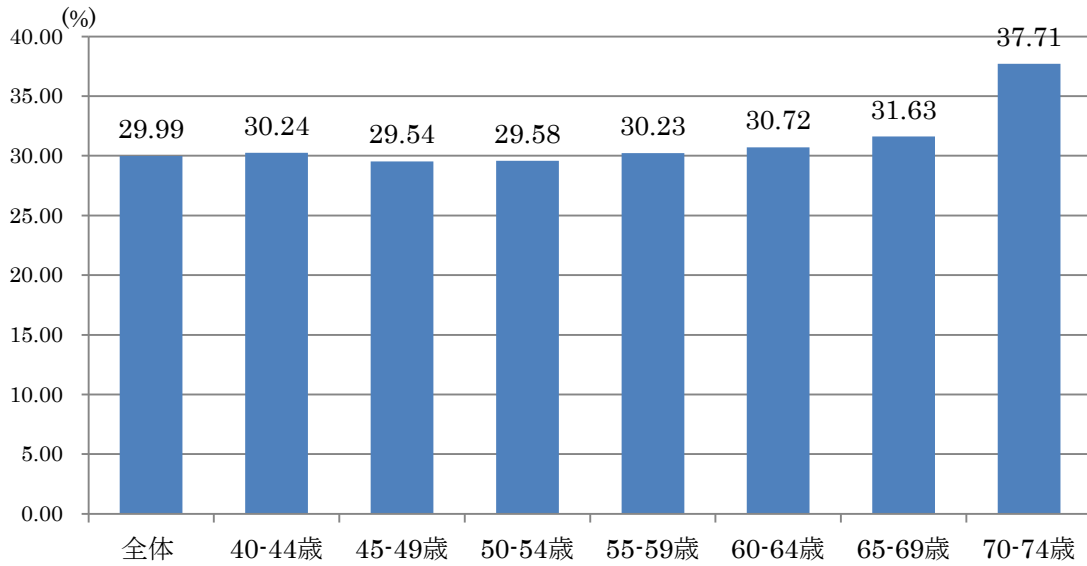
16. 年齢階層別にみた特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率

- 年齢階層別に特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率¹⁴をみると、全体:30.07%に対して、①70-74歳:36.97%が最も高く、次いで、②65-69歳:31.64%、③60-64歳:30.98%となっている。
- 被保険者・被扶養者別にみると(p.24)、被保険者では全体:29.99%で、70-74歳:37.71%が最も高く、また、被扶養者では全体:32.96%で、60-64歳:36.76%が最も高くなっている。

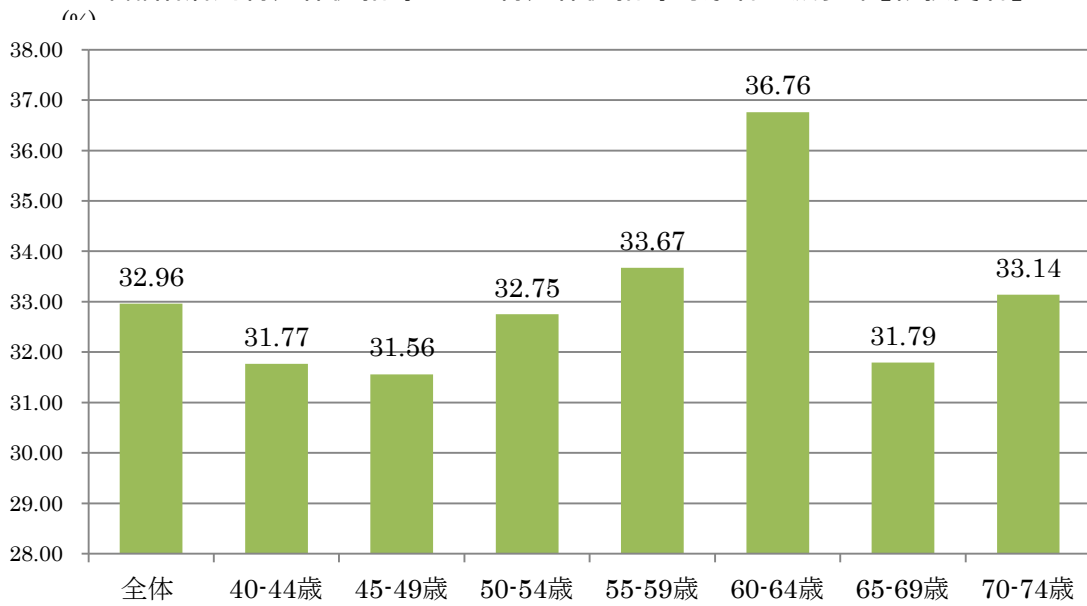


¹⁴ 昨年度の特定保健指導利用者数のうち、今年度は特定保健指導の対象者でなくなった者の数÷昨年度の特定保健指導の利用者数

年齢階層別特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率【被保険者】

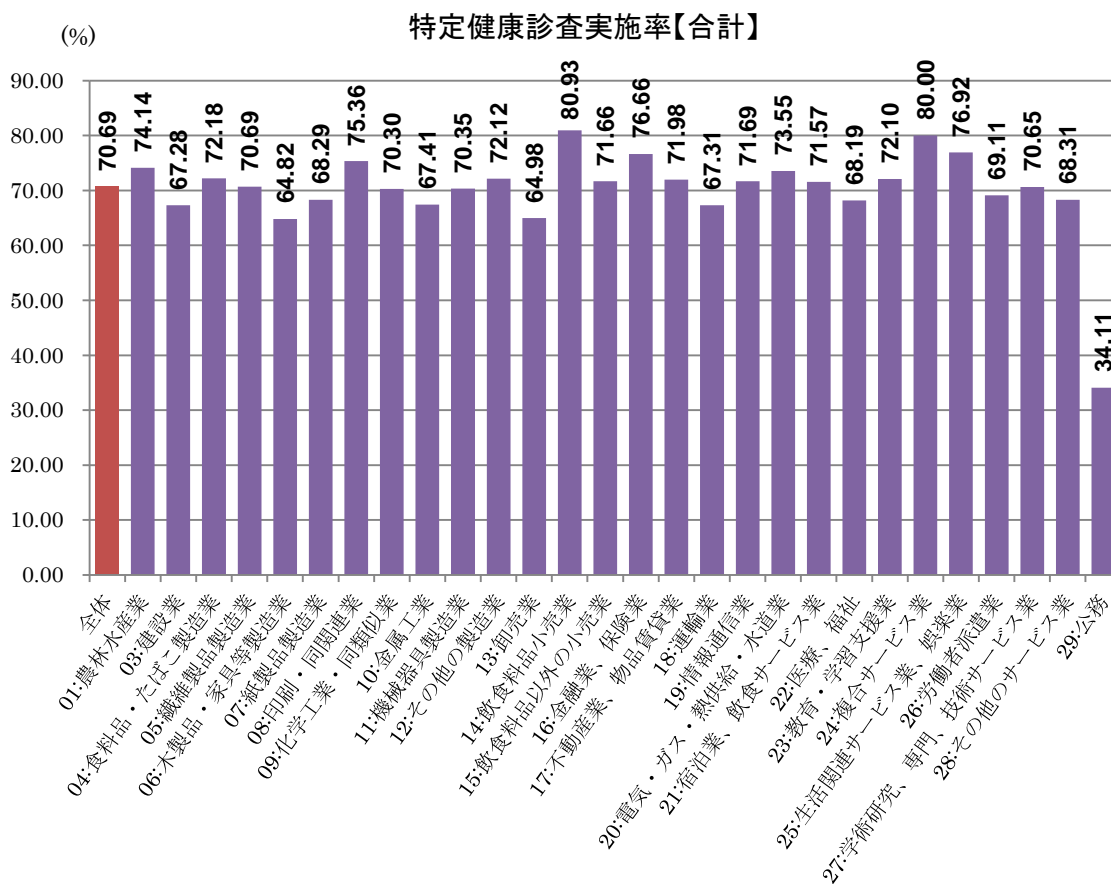


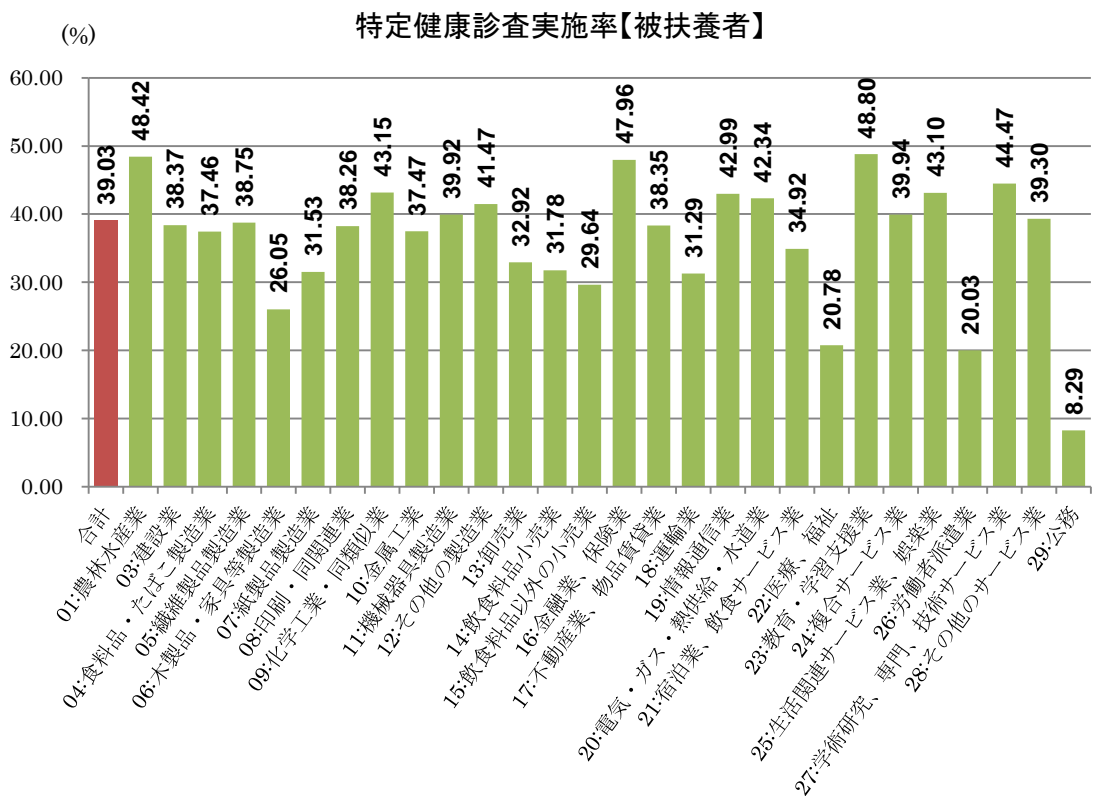
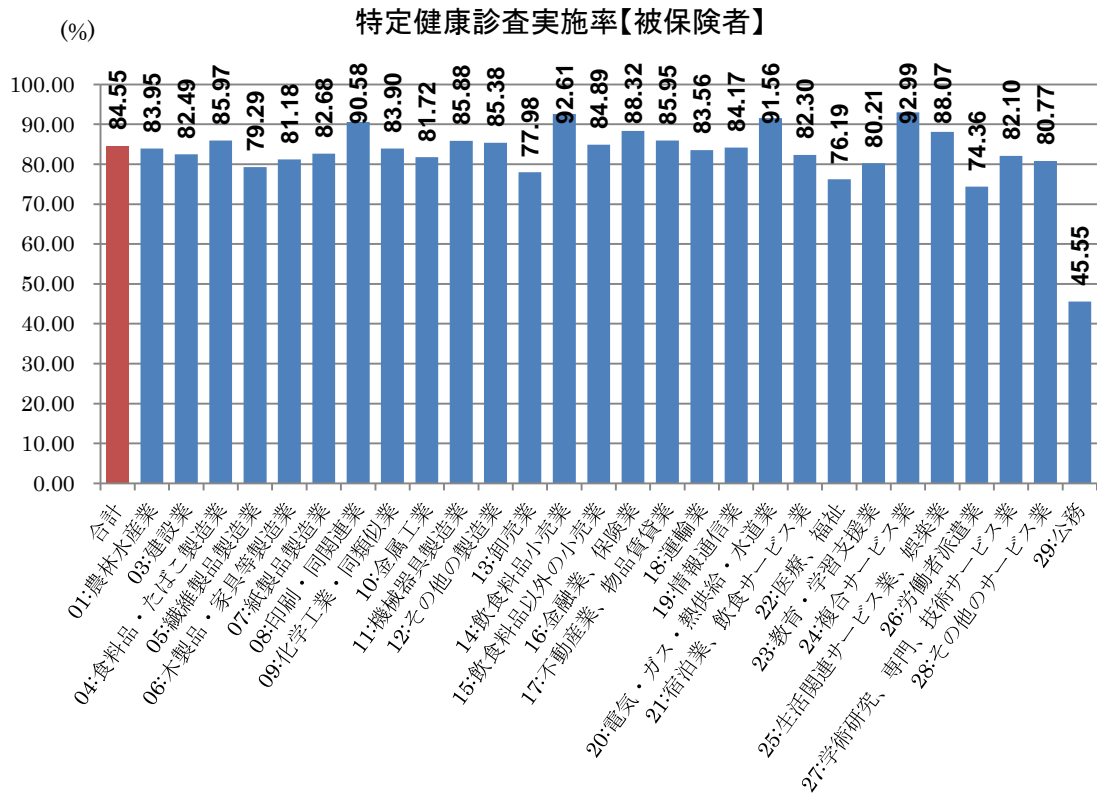
年齢階層別特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率【被扶養者】



17. 業態別にみた特定健康診査実施率

- 業態別に特定健康診査の実施率をみると、最も高いのは①飲食料品小売業：80.93%で、次いで、②複合サービス業：80.00%、③生活関連サービス業、娯楽業：76.92%となっている。
- 被保険者・被扶養者別にみると(p.26)、被保険者では①複合サービス業：92.99%が最も高く、次いで、②飲食料品小売業：92.61%、③電気・ガス・熱供給・水道業：91.56%となっている。
- 被扶養者では、①教育・学習支援業：48.80%が最も高く、次いで、②農林水産業：48.42%、③金融業、保険業：47.96%となっている。

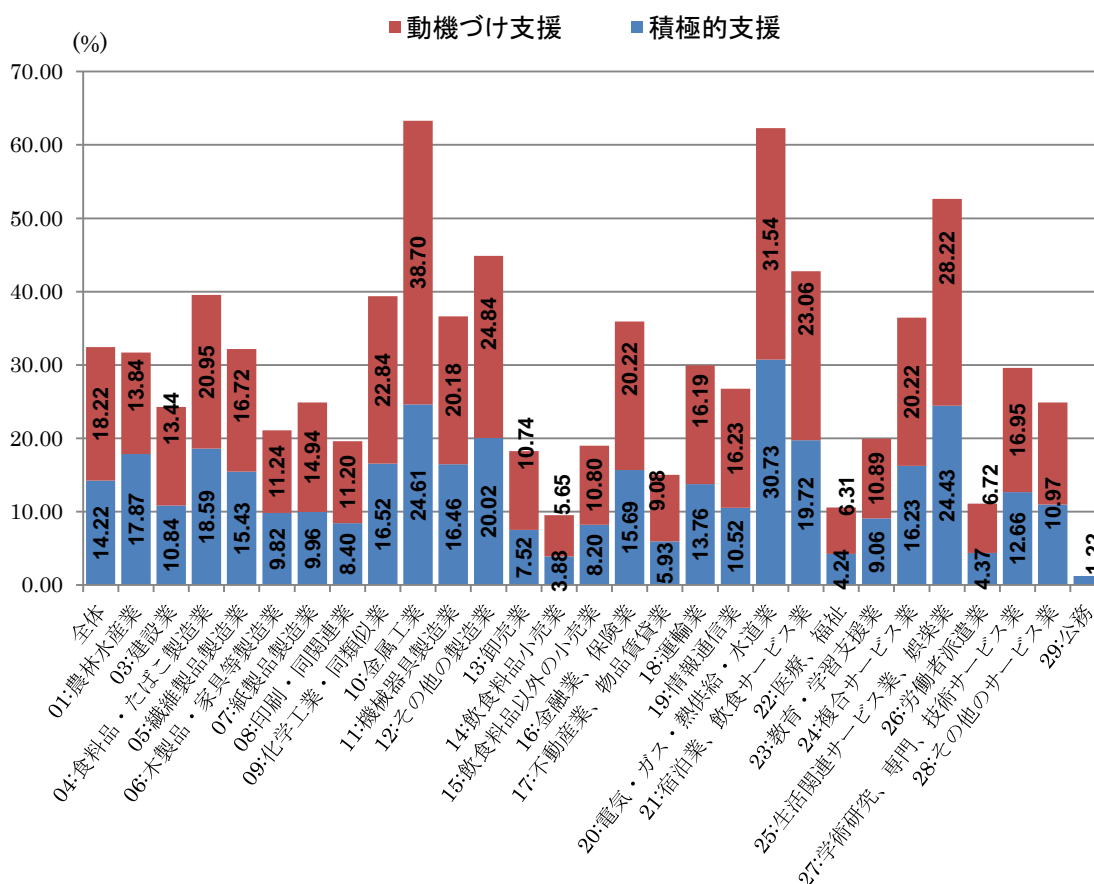




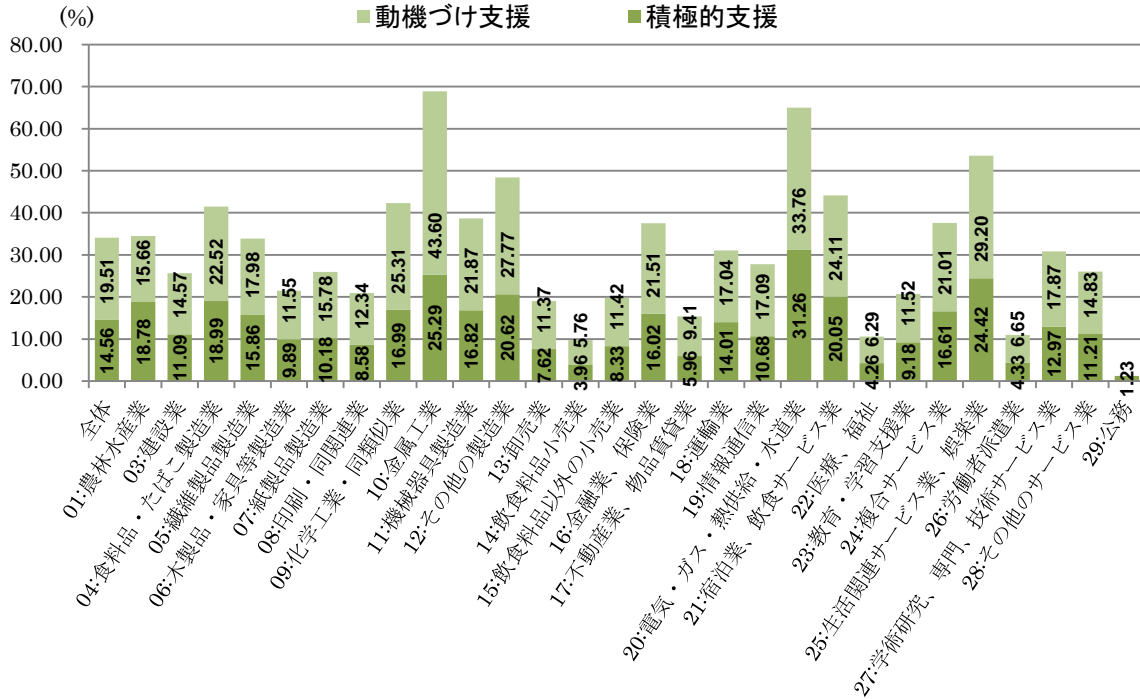
18. 業態別にみた特定保健指導実施率

- 業態別に特定保健指導(保健指導レベル別)の実施率をみると、積極的支援では、①電気・ガス・熱供給・水道業:30.73%が最も高く、次いで、②金属工業:24.61%、③生活関連サービス業、娯楽業:24.43%となっている。また、動機づけ支援では、①金属工業:38.70%が最も高く、次いで、②電気・ガス・熱供給・水道業:31.54%、③生活関連サービス業、娯楽業:28.22%となっている。
- 被保険者・被扶養者別にみると(p.28)、合計とほぼ同様の傾向にあり、被保険者では積極的支援が①電気・ガス・熱供給・水道業:31.26%、②金属工業:25.29%、③生活関連サービス業、娯楽業:24.42%となっており、動機づけ支援が①金属工業:43.60%、②電気・ガス・熱供給・水道業:33.76%、③生活関連サービス業、娯楽業:29.20%となっている。
- 被扶養者では、積極的支援が①生活関連サービス業、娯楽業:25.00%、②電気・ガス・熱供給・水道業:15.72%、③労働者派遣業:7.14%となっており、動機づけ支援が①電気・ガス・熱供給・水道業:17.34%、②生活関連サービス業、娯楽業:14.29%、③宿泊業、飲食サービス業:11.94%となっている。

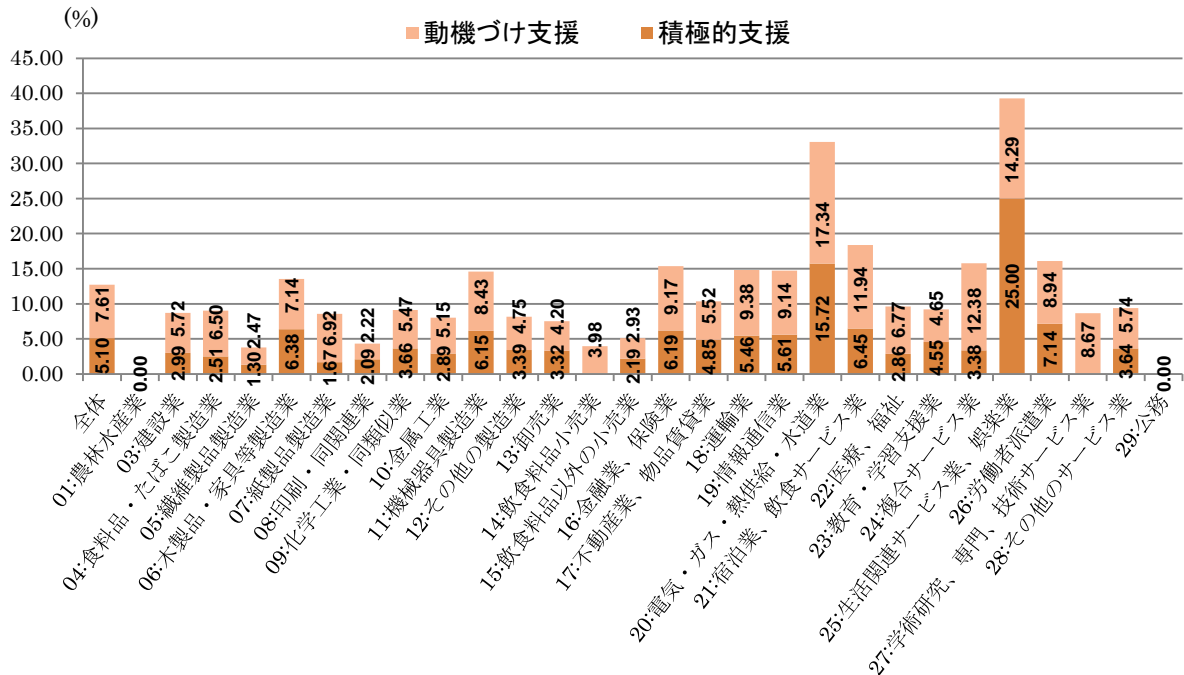
特定保健指導(レベル別)実施率【合計】



特定保健指導(レベル別)実施率【被保険者】



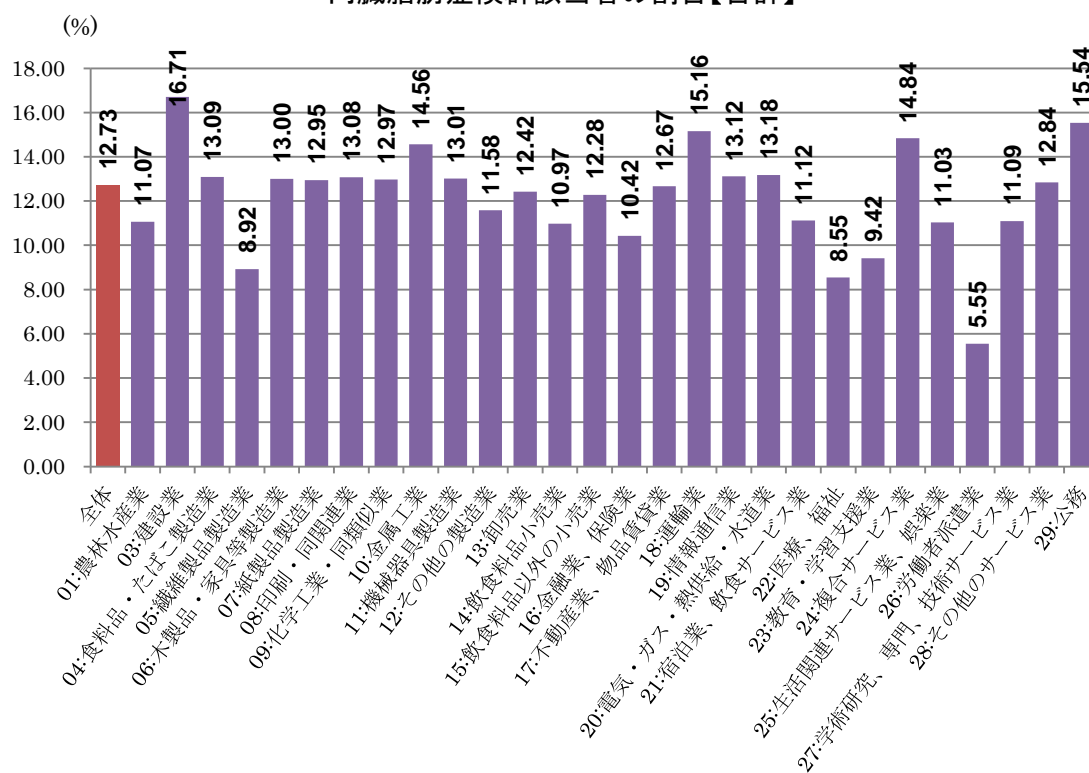
業態別特定保健指導実施率【被扶養者】



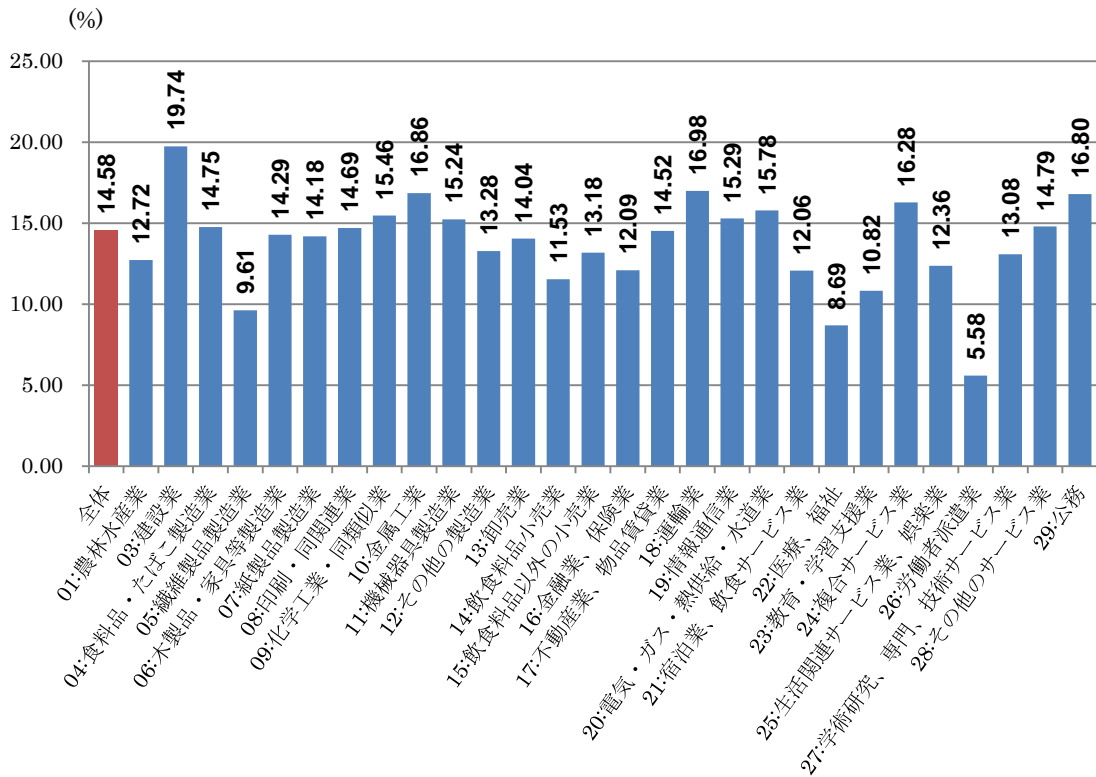
19. 業態別にみた内臓脂肪症候群該当者の割合

- 業態別に内臓脂肪症候群該当者の割合をみると、①建設業：16.71%が最も高く、次いで、②公務：15.54%、③運輸業：15.16%となっている。
- 被保険者・被扶養者別にみると(p.30)、被保険者では①建設業：19.74%、②運輸業：16.98%、③金属工業：16.86%の順に高く、被扶養者では①医療・福祉：5.48%、②紙製品製造業：4.65%、③複合サービス業：4.51%の順に高い。

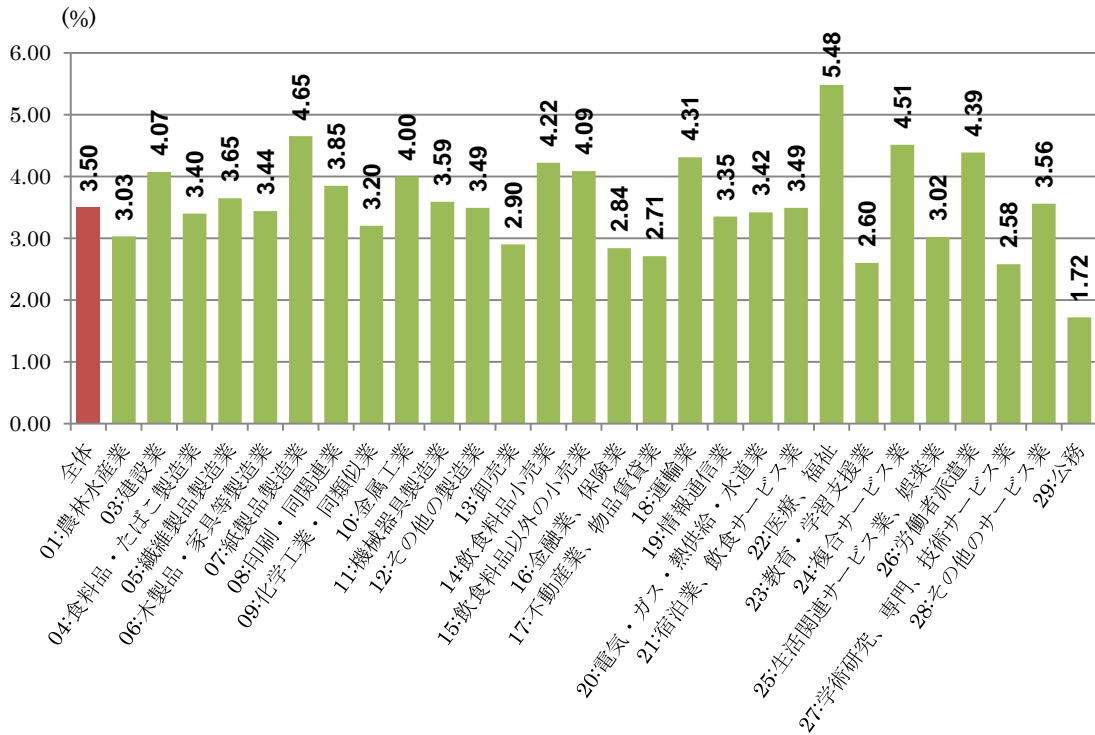
内臓脂肪症候群該当者の割合【合計】



内臓脂肪症候群該当者の割合【被保険者】



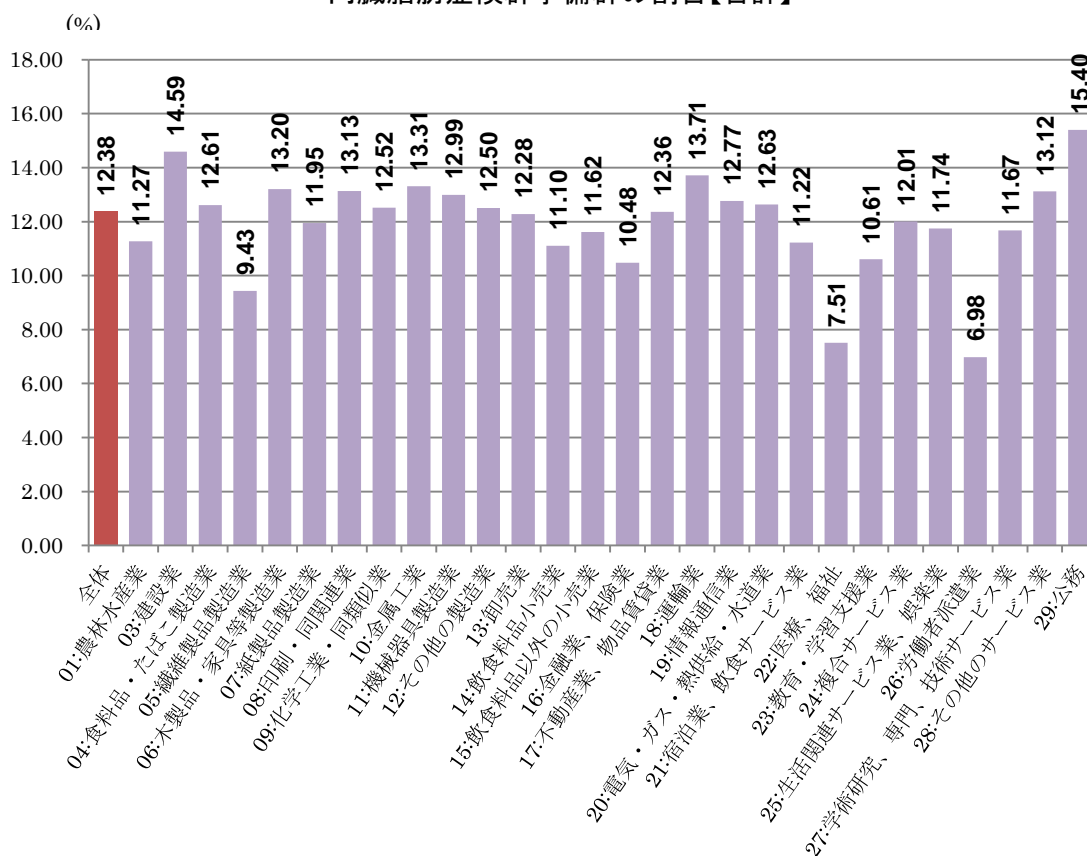
内臓脂肪症候群該当者の割合【被扶養者】



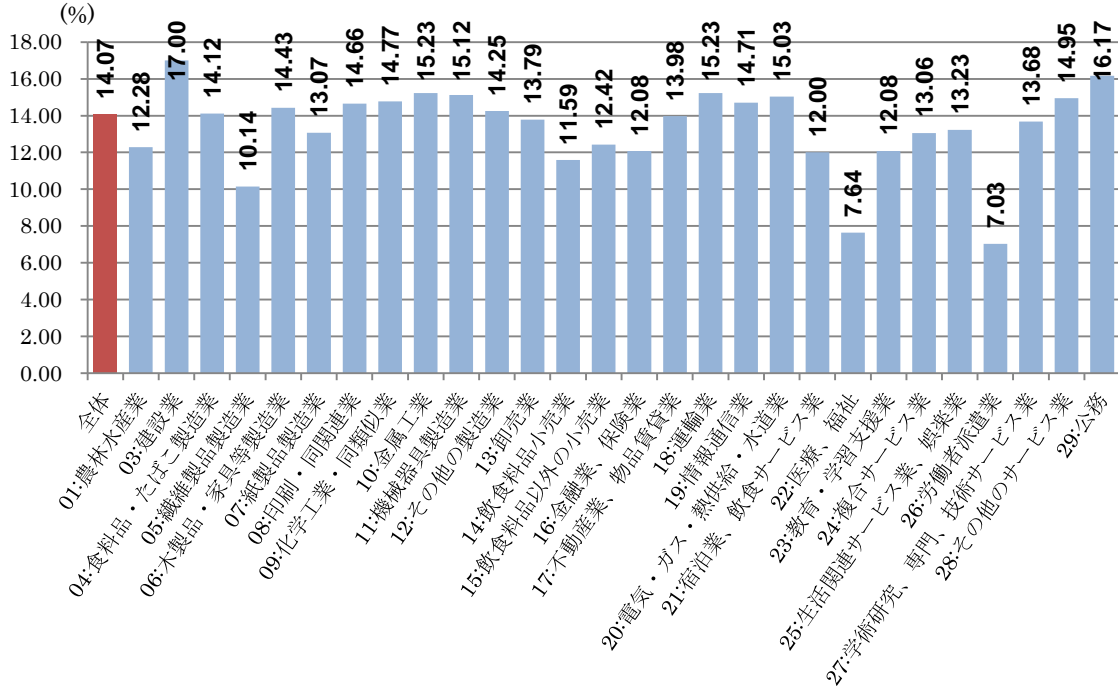
20. 業態別にみた内臓脂肪症候群予備群の割合

- 業態別に内臓脂肪症候群予備群の割合をみると、最も高いのは①公務:15.40%で、次いで、②建設業:14.59%、③運輸業:13.71%となっている。
- 被保険者・被扶養者別にみると(p.32)、被保険者では①建設業:17.00%と最も高く、次いで、②公務:16.17%、③金属工業及び運輸業:15.23%となっており、被扶養者では①公務:6.90%が最も高く、次いで、②農林水産業:6.29%、③飲食料品小売業:5.17%となっている。

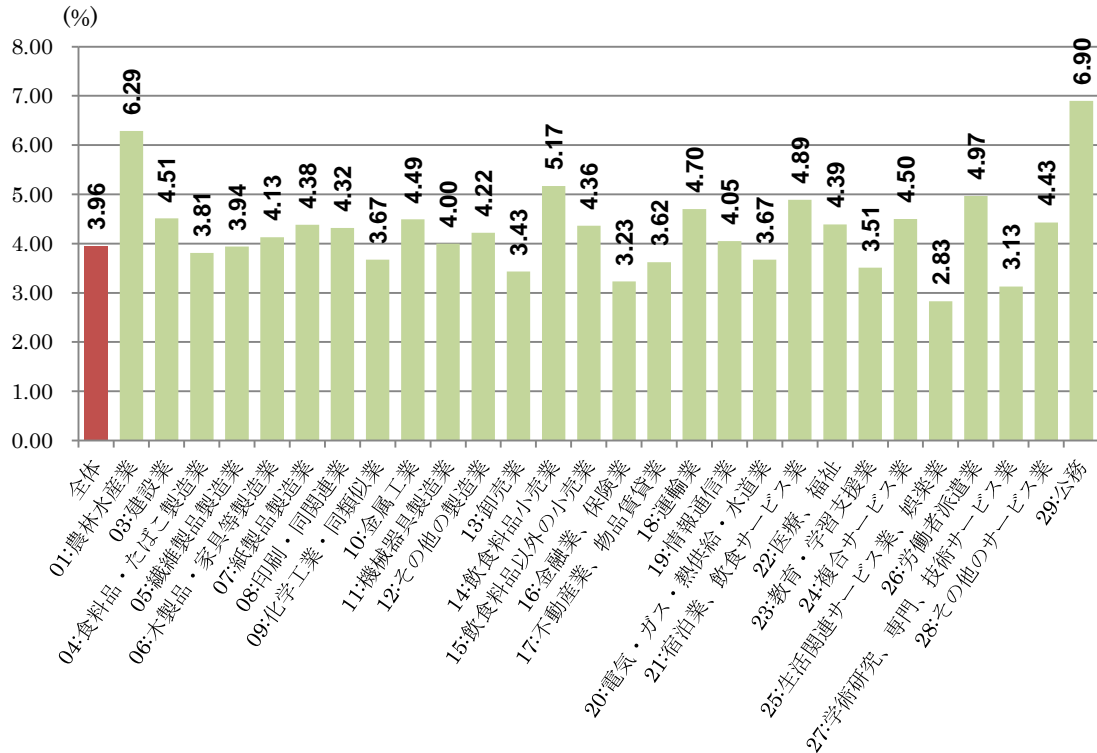
内臓脂肪症候群予備群の割合【合計】



内臓脂肪症候群予備群の割合【被保険者】



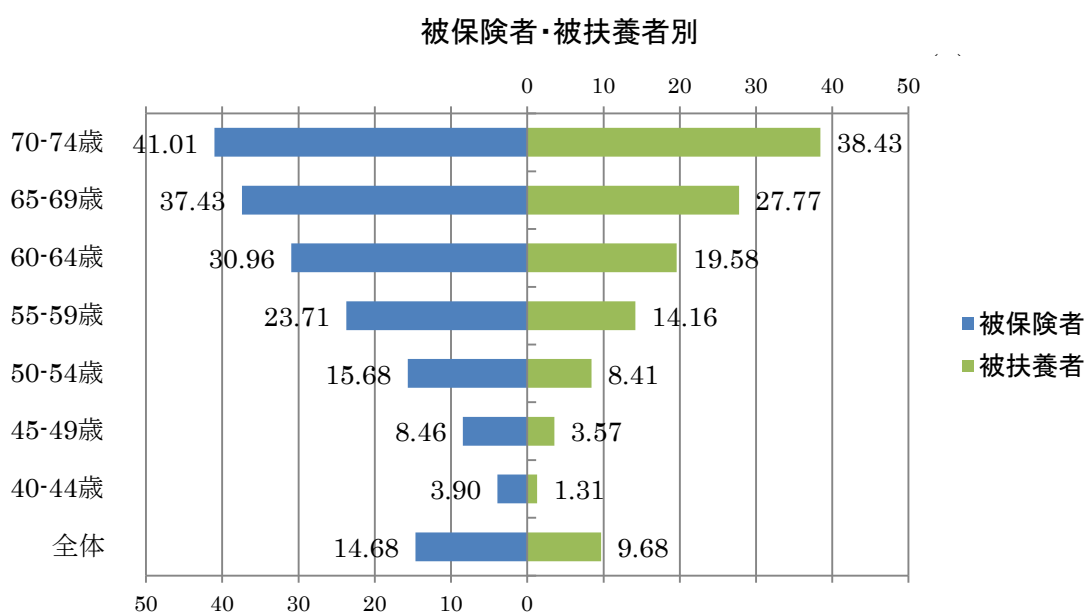
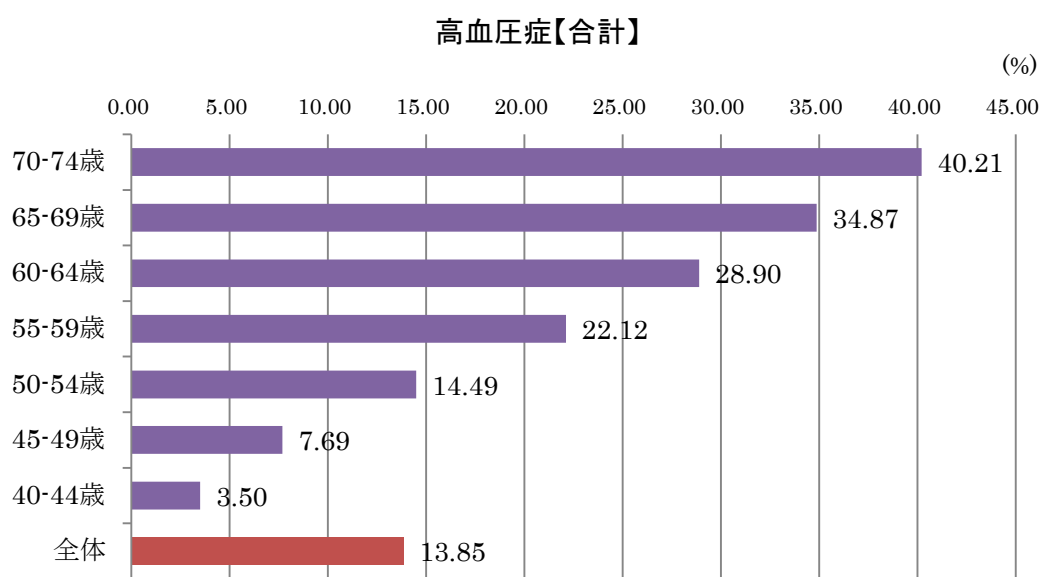
内臓脂肪症候群予備群の割合【被扶養者】



21. 年齢階層別にみた服薬状況

(1) 高血圧症の治療に係る薬剤を服用している者の割合

- 年齢階層別に高血圧症の治療に係る薬剤を服用している者の割合¹⁵をみると、全体では13.85%で、最も高いのは70-74歳:40.21%となっており、年齢階層が上がるごとに高くなっている。
- 被保険者・被扶養者別にみると、全体では被保険者:14.68%、被扶養者:9.68%となっており、どの年齢階層においても被保険者のほうが高い割合を示している。

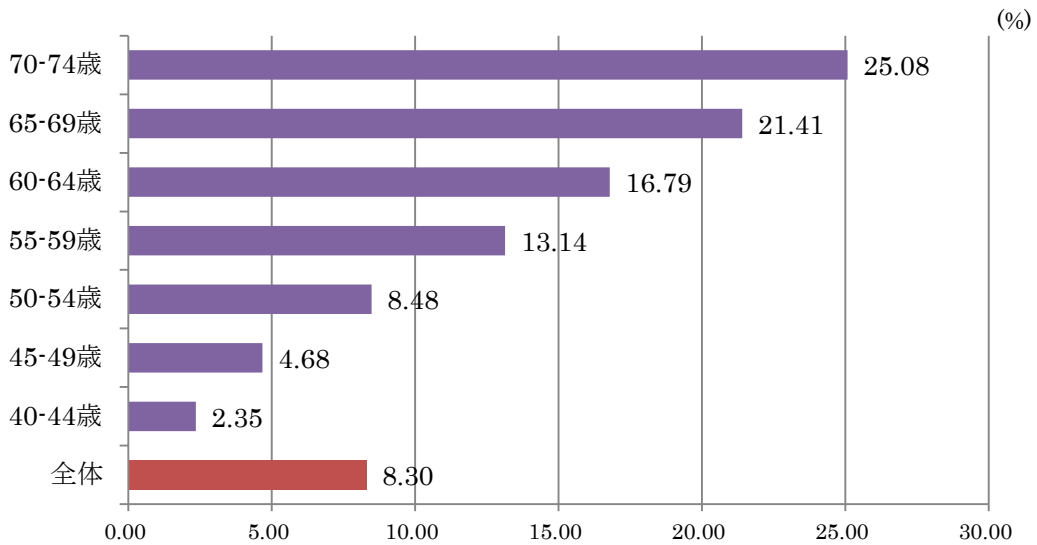


¹⁵ 高血圧症の治療に係る薬剤を服用している者の数÷評価対象者数。なお、これらの割合は、高血圧症及び脂質異常症、糖尿病の治療に係る薬剤を重複して服用している者を含めた割合である（以下、同様）。

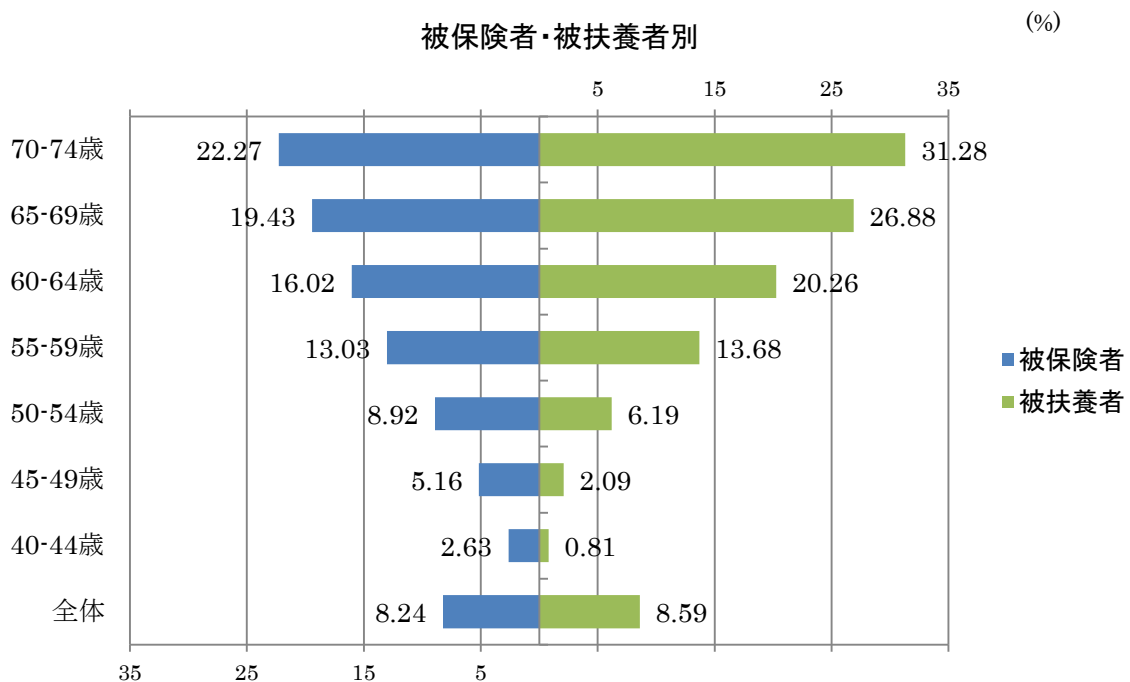
(2) 脂質異常症の治療に係る薬剤を服用している者の割合

- 年齢階層別に脂質異常症の治療に係る薬剤を服用している者¹⁶の割合をみると、全体では8.30%で、最も高いのは70-74歳:25.08%となっており、年齢階層が上がるごとに高くなっている。
- 被保険者・被扶養者別にみると、全体では被保険者:8.24%、被扶養者:8.59%となっており、被扶養者のほうが比較的高い割合を示している。

脂質異常症【合計】



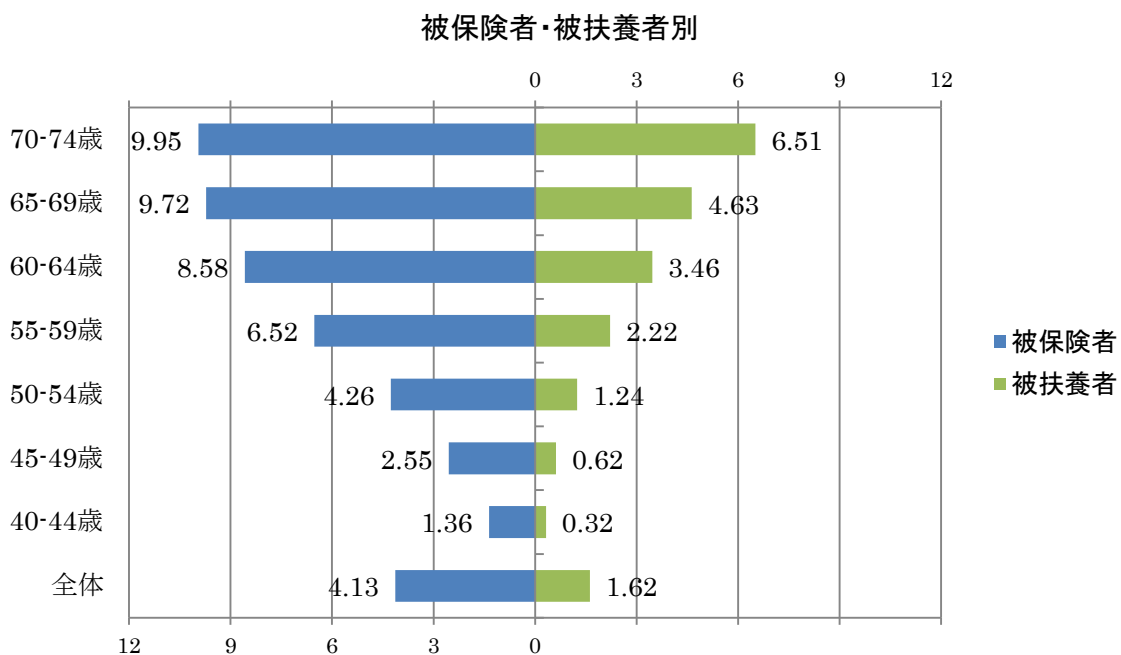
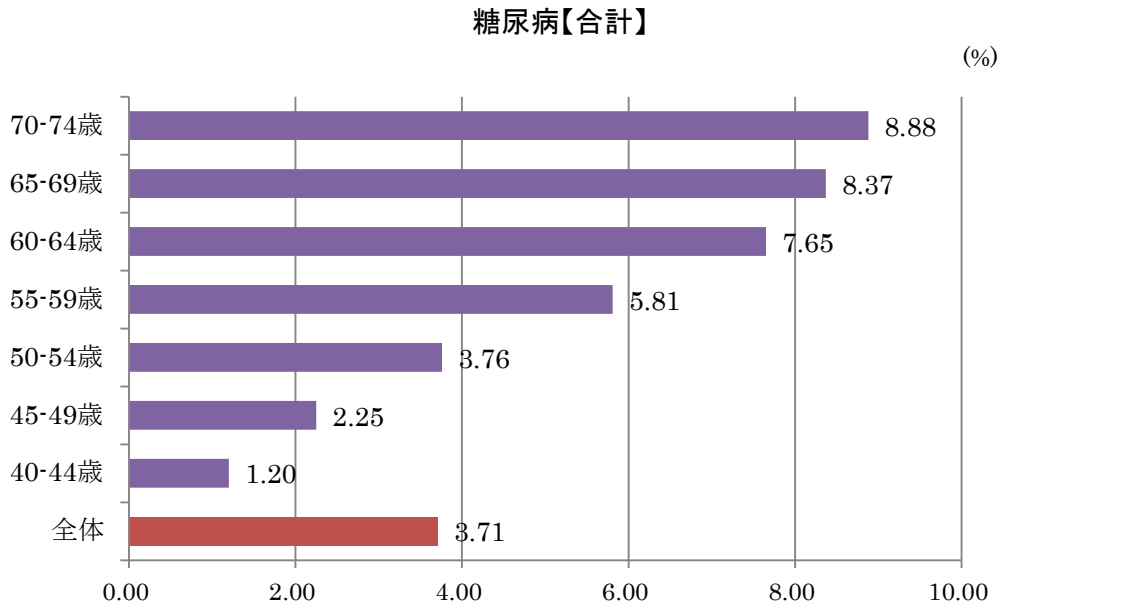
被保険者・被扶養者別



¹⁶ 脂質異常症の治療に係る薬剤を服用している者の数 ÷ 評価対象者数

(3) 糖尿病の治療に係る薬剤を服用している者の割合

- 年齢階層別に糖尿病の治療に係る薬剤を服用している者の割合¹⁷をみると、全体では3.71%で、最も高いのは70-74歳:8.88%となっており、年齢階層が上がるごとに高くなっている。
- 被保険者・被扶養者別にみると、全体では被保険者:4.13%、被扶養者:1.62%となっており、どの年齢階層においても被保険者のほうが高い割合を示している。

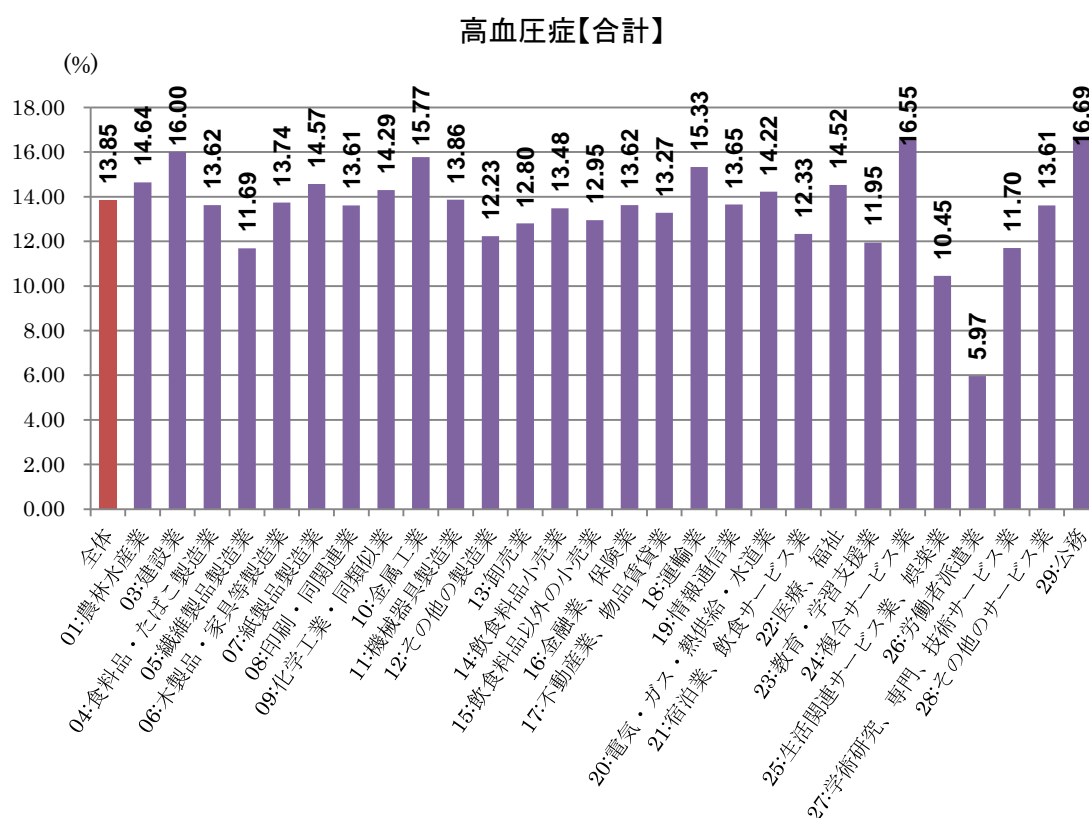


¹⁷ 糖尿病の治療に係る薬剤を服用している者の数 ÷ 評価対象者数

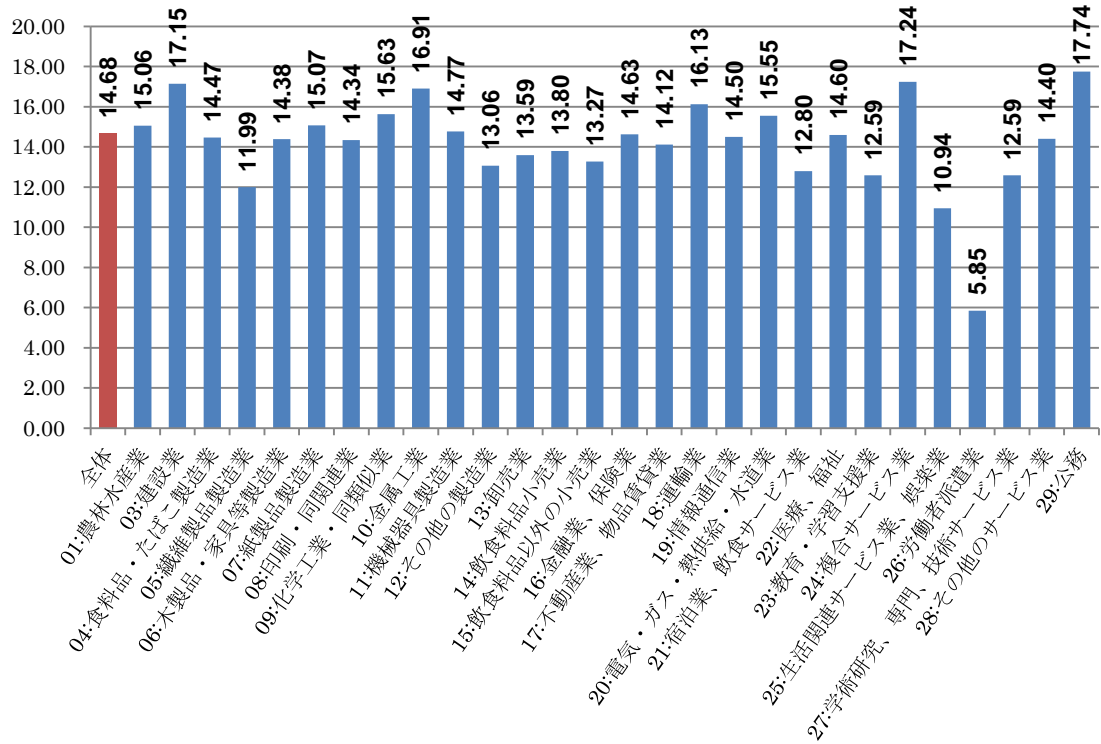
22. 業態別にみた服薬状況

(1) 高血圧症の治療に係る薬剤を服薬している者の割合

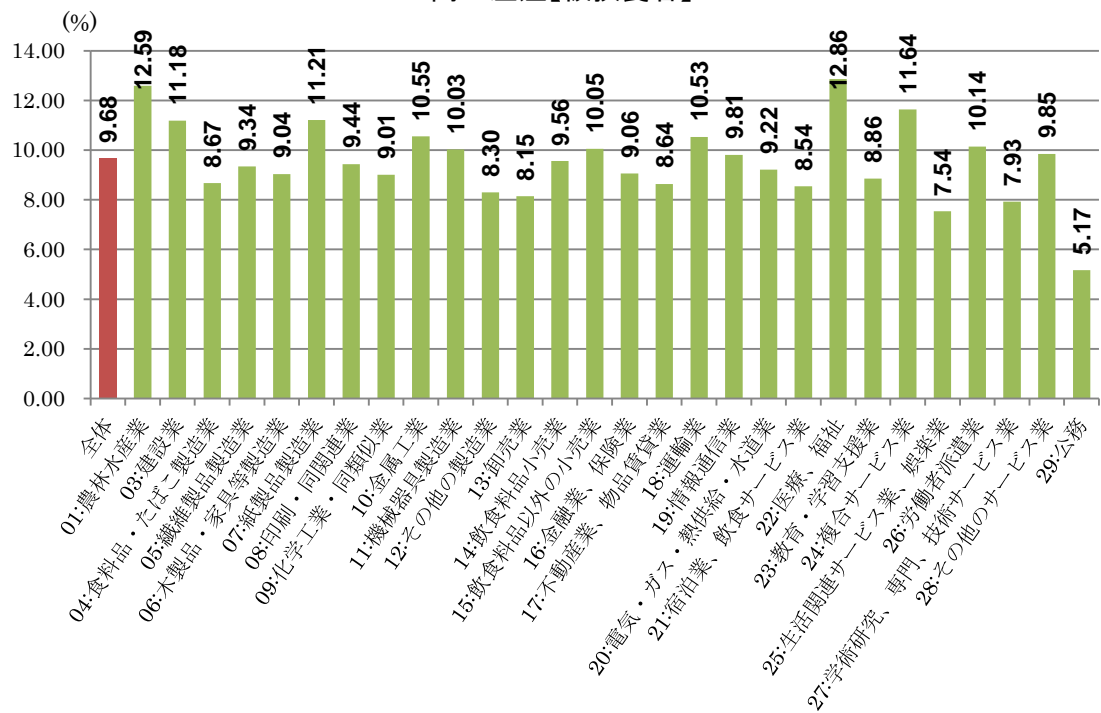
- 業態別に高血圧症の治療に係る薬剤を服用している者の割合をみると、全体：13.85%に対して、①公務：16.69%が最も高く、次いで、②複合サービス業：16.55%、③建設業：16.00%となっている。
- 被保険者・被扶養者別にみると(p.37)、被保険者では全体：14.68%に対して、最も高いのは①公務：17.74%で、次いで、②複合サービス業：17.24%、③建設業：17.15%となっている。一方、被扶養者では全体 9.68%に対して、最も高いのは①医療・福祉：12.86%で、次いで、②農林水産業：12.59%、③複合サービス業：11.64%となっている。



(%) 高血圧症【被保険者】

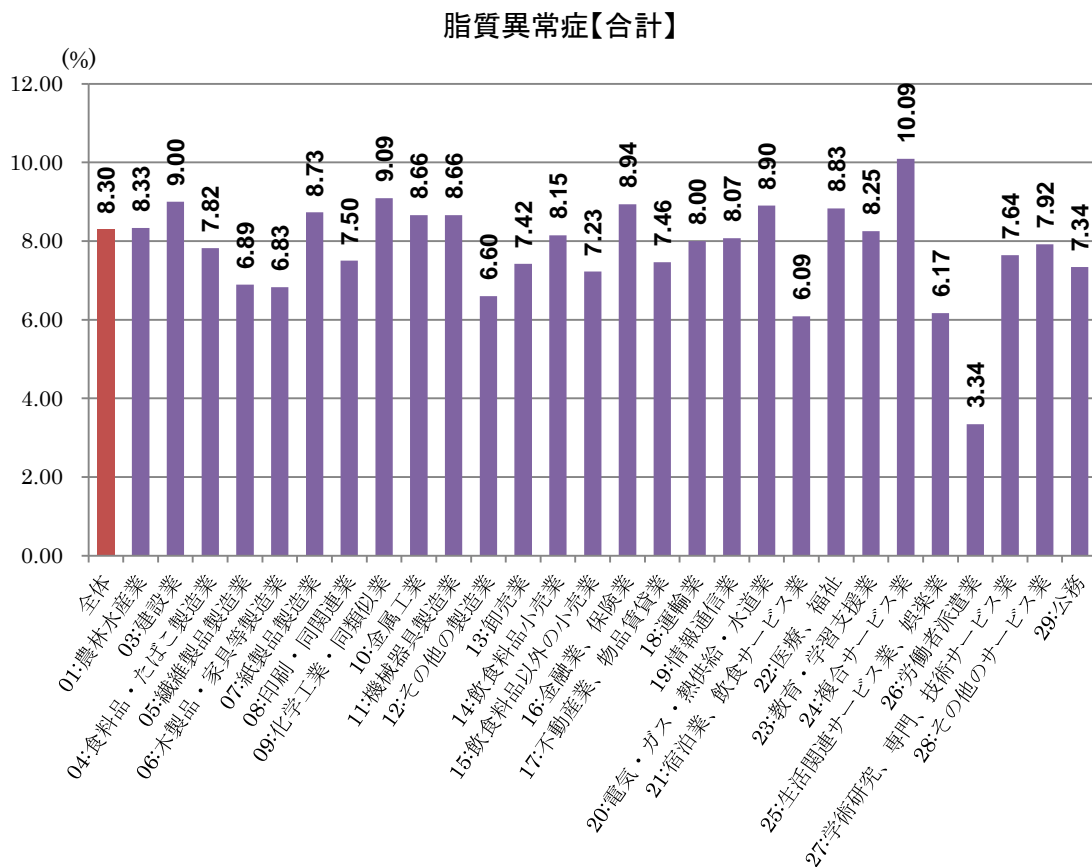


高血圧症【被扶養者】

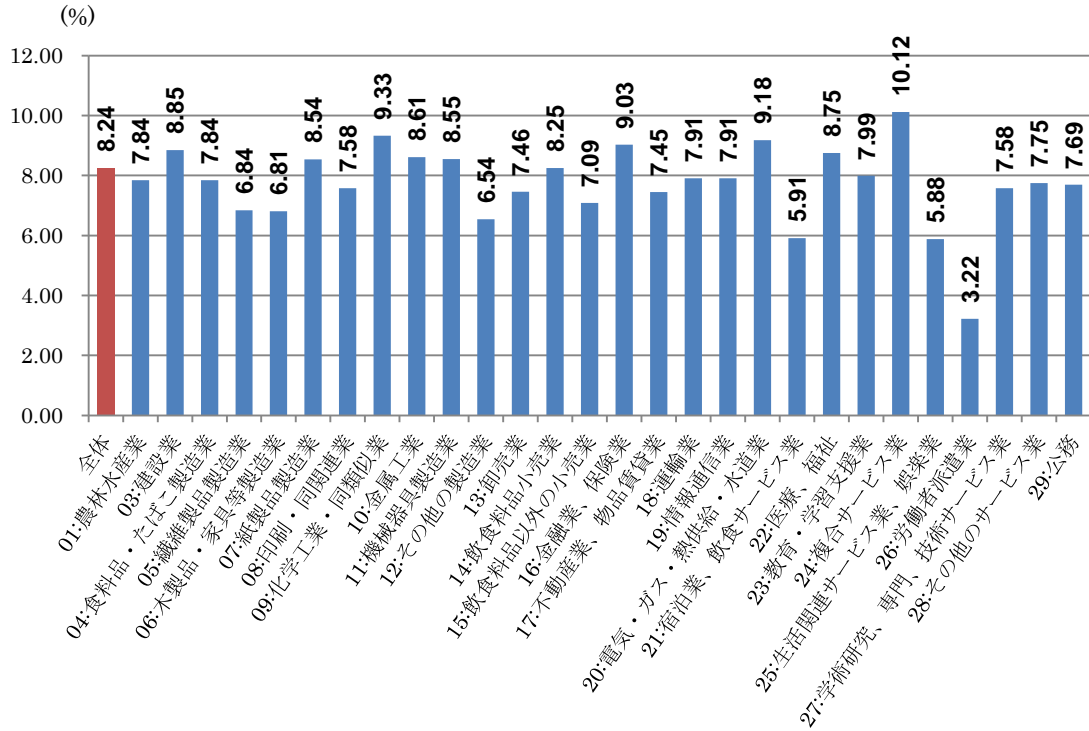


(2) 脂質異常症の治療に係る薬剤を服薬している者の割合

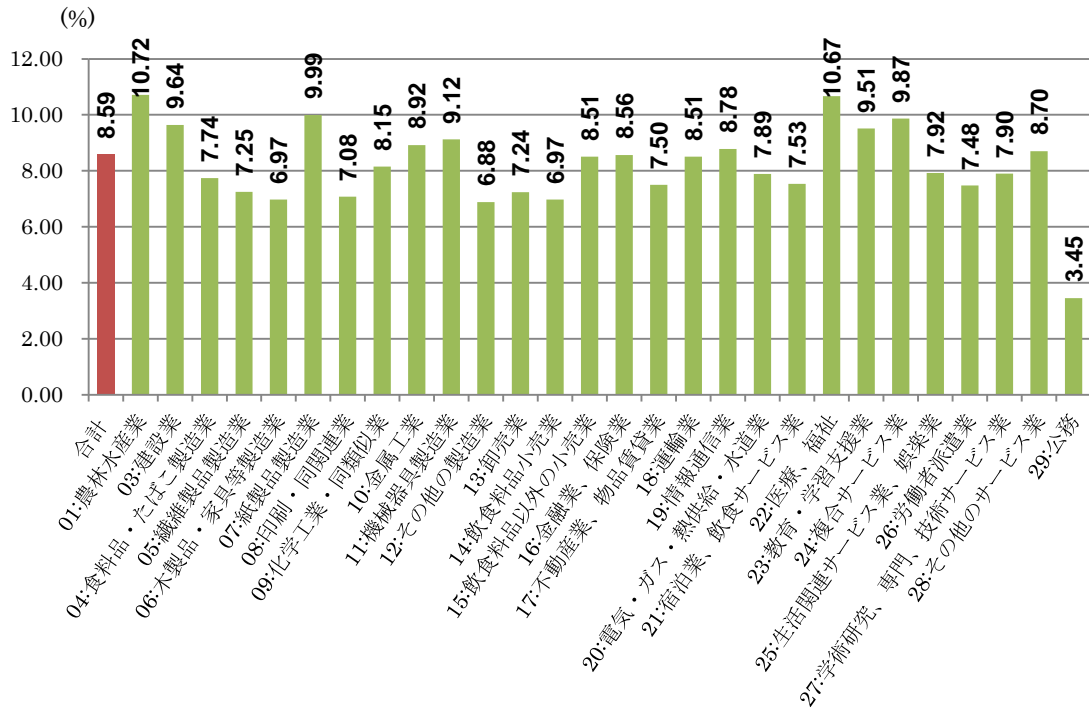
- 業態別に脂質異常症の治療に係る薬剤を服用している者の割合をみると、全体：8.30%に対して、①複合サービス業：10.09%が最も高く、次いで、②化学工業・同類似業：9.09%、③建設業：9.00%となっている。
- 被保険者・被扶養者別にみると(p.39)、被保険者では全体：8.24%に対して、①複合サービス業：10.12%が最も高く、次いで、②化学工業・同類似業：9.33%、③電気・ガス・熱供給・水道業：9.18%となっている。一方、被扶養者では全体8.59%に対して、①農林水産業：10.72%が最も高く、次いで、②医療・福祉：10.67%、③紙製品製造業：9.99%となっている。



脂質異常症【被保険者】

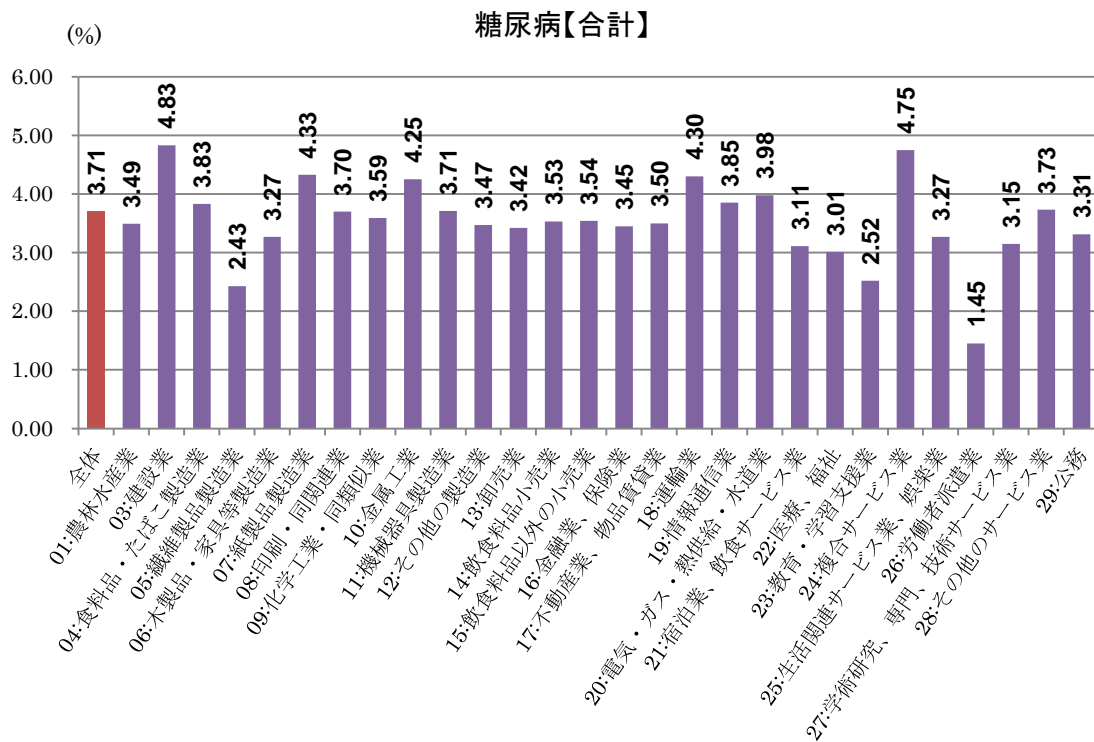


脂質異常症【被扶養者】

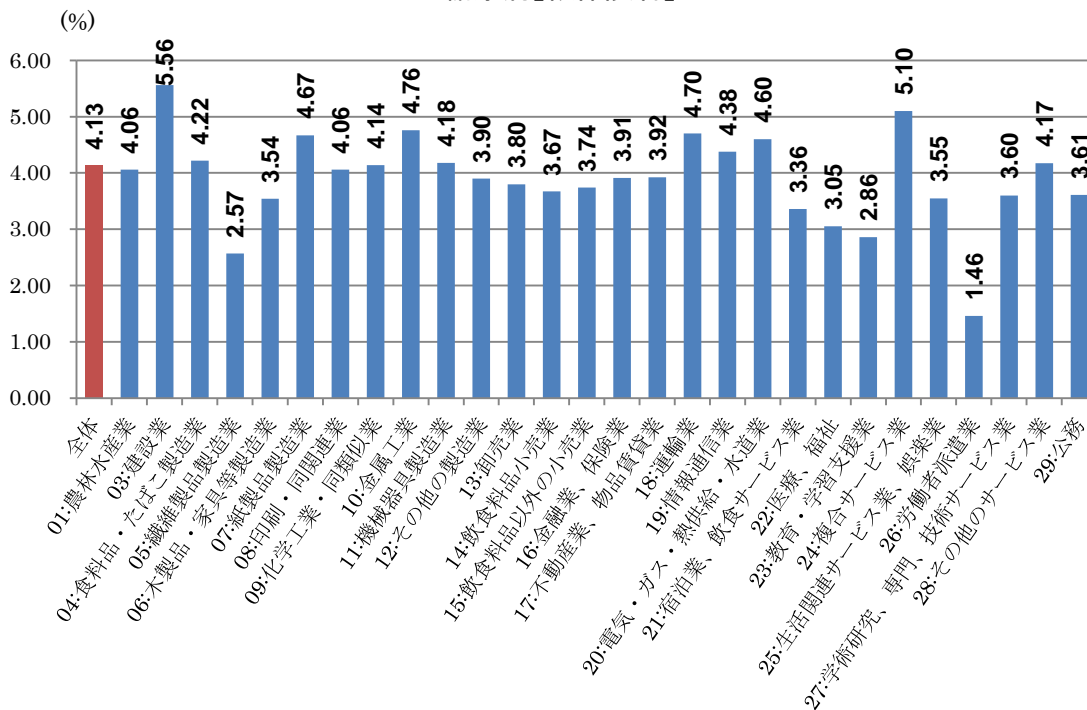


(3) 糖尿病の治療に係る薬剤を服薬している者の割合

- 業態別に糖尿病の治療に係る薬剤を服用している者の割合をみると、全体：3.71%に対して、最も高いのは①建設業：4.83%で、次いで、②複合サービス業：4.75%、③紙製品製造業：4.33%となっている。
- 被保険者・被扶養者別にみると(p.41)、被保険者では全体：4.13%に対して、①建設業：5.56%が最も高く、次いで、②複合サービス業：5.10%、③金属工業：4.76%となっている。一方、被扶養者では全体：1.62%に対して、①複合サービス業：2.26%が最も高く、次いで、②医療・福祉：2.23%、③紙製品製造業：2.02%となっている。



糖尿病【被保険者】



糖尿病【被扶養者】

